

# 平成29年度 英語力調査結果（高校3年生）の概要

## 1 調査の目的

高校3年生を対象に、英語の4技能（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）がバランスよく育成されているかという観点から、経年比較を含め、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

### 参考

「第2期教育振興基本計画」（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、中学3年生、高校3年生の英語力の目標を設定。

「第2期教育振興基本計画」（平成25～29年度）における成果指標

国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標

（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

## 2 調査の内容・対象

全国の高校3年生約6万人（国公立約300校）の英語力を調査。

- ・学習指導要領に基づき、全員を対象に3技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）試験を実施。
- ・「話すこと」は約1万人を調査（1校あたり1クラスを対象）。

生徒の英語学習状況や英語担当教員の指導状況を把握・分析（質問紙調査）。

- ・受験した生徒：英語学習に対する関心・意欲や授業内外における学習状況 など。
- ・調査実施対象校の英語担当教員：授業における指導や評価の状況 など。

学校の取組事例を調査。

- ・調査結果において特徴が見られた学校における取組内容の調査。

調査実施時期：平成29年6月末～7月中実施。

平成29年10月に生徒個人票返却、平成30年3月末を目途に結果をとりまとめ、公表。

## 3 調査の特徴

国による全国無作為抽出で行う4技能型試験の調査（前回は平成27年度に実施）。

現行学習指導要領で学んだ生徒の調査を実施。

世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1からB2までのレベルを測定できるように設計（別紙参照）。

【度数分布】

# 1. 生徒全体の英語力の傾向

平成27年度同様、4技能のバランスに課題がある。

- ・ CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A2レベル以上の割合が「聞くこと（33.6%）」「話すこと（12.9%）」「読むこと（33.5%）」「書くこと（19.7%）」となった。
- ・ 一昨年度に比べて「聞くこと」は増加し、「話すこと」「書くこと」は横ばい。一方、目標の50%には、4技能すべて達していない。

特に、「話すこと」「書くこと」は全体的に低く、無得点者の割合もそれぞれ18.8%と15.1%と一定数いる状況で、一昨年度と同様の傾向となっている。

## 【生徒全体のスコア分布（公立）】

<聞くこと> 36問（約23分）

CEFR	得点	平成27年度		平成29年度	
		人数	割合	人数	割合
B2	320	1,125	0.2%	2,211	0.3%
B1	310	504	2.3%	498	3.1%
	300	558		853	
	290	694		1,100	
	280	821		1,296	
	270	1,617		1,899	
	260	1,541		2,503	
	250	2,137		3,120	
	240	3,151		4,329	
A2	230	3,806	26.2%	5,148	30.2%
	220	5,617		6,946	
	210	6,889		9,097	
	200	9,603		11,356	
	190	12,645		15,112	
	180	16,250		20,461	
	170	20,540		24,116	
	160	25,671		30,971	
A1	150	33,149	71.4%	39,240	66.4%
	140	41,655		45,075	
	130	53,192		52,551	
	120	65,582		59,185	
	110	76,456		65,779	
	100	75,343		66,334	
	90	68,494		66,395	
	80	53,007		54,737	
	70	32,936		37,541	
	60	19,791		21,200	
	50	9,820		9,786	
	40	4,845		4,293	
30	2,448	1,726			
20	1,127	825			
10	1,101	963			
0	4,107	3,091			
平均		1231		1273	
調査対象		656223		669737	

<読むこと> 43問（約45分）

CEFR	得点	平成27年度		平成29年度	
		人数	割合	人数	割合
B2	320	281	0.1%	1,232	0.4%
	310	131		677	
	300	314		932	
B1	290	364	2.2%	942	3.7%
	280	472		1,522	
	270	677		2,057	
	260	1,126		2,092	
	250	1,615		3,105	
	240	2,328		3,572	
	230	3,227		4,949	
	220	4,660		6,513	
A2	210	6,786	32.4%	8,390	29.4%
	200	9,241		10,448	
	190	12,588		13,637	
	180	18,051		17,714	
	170	23,782		23,422	
	160	33,528		30,308	
	150	45,807		40,999	
	140	62,986		51,875	
A1	130	84,998	65.3%	67,892	66.5%
	120	105,191		86,098	
	110	101,560		99,527	
	100	73,225		90,622	
	90	36,947		58,005	
	80	15,335		26,861	
	70	5,208		9,924	
	60	1,787		2,845	
	50	749		1,191	
	40	269		491	
	30	278		299	
	20	9		66	
10	0	52			
0	2,706	1,478			
平均		1339		1333	
調査対象		656223		669737	

<話すこと> 6問（対面約10分）

CEFR	得点	平成27年度		平成29年度	
		人数	割合	人数	割合
B1	14	1,853	1.5%	1,357	1.2%
A2	13	2,015	11.3%	2,730	11.7%
	12	3,242		0	
	11	3,516		4,583	
	10	5,149		6,446	
	9	6,202		7,532	
A1	8	7,429	87.1%	8,374	87.2%
	7	8,316		8,933	
	6	9,266		0	
	5	11,902		9,772	
	4	7,602		10,289	
	3	11,619		9,004	
	2	0		9,559	
	1	26,324		17,086	
	0	18,267		22,209	
	平均			4.7	
調査対象		122703		117873	
0点のみ		18,267	14.9%	22,209	18.8%

<書くこと> 2問（約27分）

CEFR	得点	平成27年度		平成29年度				
		人数	割合	人数	割合			
B2	140	0	0.0%	0	0.0%			
	135	8		0				
	130	0		0				
B1	125	18	0.7%	13	0.4%			
	120	165		26				
	115	412		171				
	110	1,621		302				
	105	2,684		1,949				
	100	6,225		3,821				
A2	95	6,684	18.8%	6,724	19.3%			
	90	12,613		5,721				
	85	14,530		26,505				
	80	19,370		21,656				
	75	32,069		33,002				
	70	32,421		31,975				
	A1	65		40,917		80.4%	35,060	80.4%
		60		33,345			26,496	
		55		36,873			44,698	
		50		32,330			28,693	
		45		21,515			26,414	
		40		28,122			34,692	
35		19,150	31,299					
30		22,625	25,703					
25		24,120	32,500					
20		29,161	36,405					
15		36,840	21,592					
10		98,404	95,329					
5		0	0					
0		105,925	101,342					
平均			39.9		40.1			
調査対象		658,145		672,089				
0点のみ		105,925	16.1%	101,342	15.1%			

調査対象は都市規模と学校規模をもとに抽出を行った。調査結果は母集団に対する標本の抽出率に応じて抽出ウェイトをかけて集計を行っている。そのため、度数分布の各度数とアンケート回答人数は実際の被験者数とは異なる。

CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力評価のために、透明性が高く分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等・中等教育を通じた目標として適用されたり、言語能力に関する調査を実施するに当たって用いられたりしている。本調査では、便宜上A1～B2レベルまでを得点帯刻みに設定し分布を把握。

## 【質問紙調査の構成・結果概要】

# 2. 質問紙調査の構成と調査結果の概要

### 【生徒・教員・学校に対する質問紙調査の構成】

項目	内容	
生徒質問紙	英語学習に対する生徒の意識 ・英語学習への関心 ・英語を身に付け何をしたいか 英語使用に関する経験 英語資格・検定試験の受験経験	英語の学習方法・内容や学習時間 言語活動に対する生徒の意識 ・生徒同士で意見交換などを行っていたか 中学校英語学習の経験
教員質問紙	授業における言語活動の指導に対する教員の意識 ・スピーチ、プレゼンテーションなどを行っていたか 英語の授業での英語の使用状況 生徒が英語の授業でコミュニケーション活動を行っている割合	校内外の研修会への参加状況 自分の英語力を向上させるための取組 英語の資格・検定試験の受験状況 中学校英語学習の経験
学校質問紙	研修の実施状況 学校外研修の活用状況	言語活動に重点を置いた指導計画作成状況

### 【調査結果の概要】

#### < 生徒の意識について >

「英語の学習が好きである」と回答した生徒は、一昨年度並で5割程度。

・得点が高い方が「英語の学習が好きである」と回答する割合が高く、「話すこと」のB1レベルでは9割程度。

身に付けたい英語力について、得点が高い方が「国際社会で活躍できるようになりたい」と将来の英語使用に対して高い目標を持つ傾向。

#### 英語の授業における言語活動について

授業の中で「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答した生徒は59.6%で、対一昨年度1.2ポイント増加（平成27年度は58.4%）。

・「聞くこと」「読むこと」の得点が高い方が、この言語活動を「していた」と回答する割合が高い。

授業の中で「英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていた」と回答した生徒は62.0%で、対一昨年度2.1ポイント増加（平成27年度は59.9%）。

・「聞くこと」の得点が高い方が、この言語活動を「していた」と回答する割合が高い。

授業の中で「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答した生徒は58.2%で、対一昨年度2.8ポイント増加（平成27年度は55.4%）。

・「読むこと」の得点が高い方が、この言語活動を「していた」と回答する割合が高い。

授業の中で「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答した生徒は、対一昨年度5.9ポイント増加したものの36.9%にとどまる（平成27年度は31.0%）。また、授業の中で「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答した生徒は、対一昨年度4.7ポイント増加したものの28.7%にとどまる（平成27年度は24.0%）。

・「話すこと」の得点が高い方が、これらの言語活動を「していた」と回答する割合が高い。

授業の中で「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答した生徒は47.8%で、対一昨年度4.9ポイント増加（平成27年度は42.9%）。

・「書くこと」の得点が高い方が、この「統合的な言語活動」を「していた」と回答する割合が高い。

中学校で学んだことで高校の英語の授業で役に立ったこととして、「英語で簡単な会話をすること」「英語の文法について学ぶこと」「英語で単語や文、文章などを書くこと」などの回答が多い。

#### < 教員の意識について >

「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする」「統合的な言語活動」を行っている教員は48.9%で、一昨年度より8.0ポイント増加（平成27年度は40.9%）。

・「統合的な言語活動」を行っている学校の方が、生徒の「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の得点が高い。特に、「話すこと」「書くこと」については得点の差が大きい。

現行の学習指導要領で示されている、統合的な言語活動を行っている学校の方が、「話すこと」「書くこと」だけでなく「聞くこと」「読むこと」の得点も高い。

新学習指導要領では、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域について統合的な言語活動をより一層充実するとともに、発信力の育成のさらなる強化が予定されている。

### 3. 英語学習に対する生徒の意識

#### 生徒の英語学習に対する意識

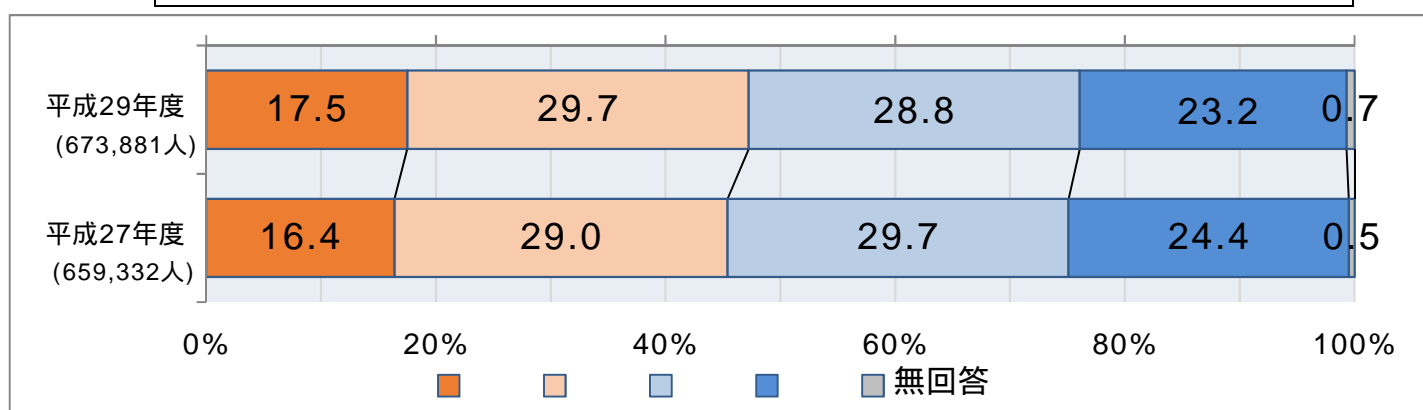
「英語の学習が好きである」と回答した生徒（選択肢 合計）は47.2%で、対一昨年度1.8ポイント増加（平成27年度は45.4%）。

「話すこと」「書くこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方がいずれにおいても「英語の学習が好きである」と回答する生徒の割合が高く、「話すこと」のB1では90.9%が「英語の学習が好きである」と回答。

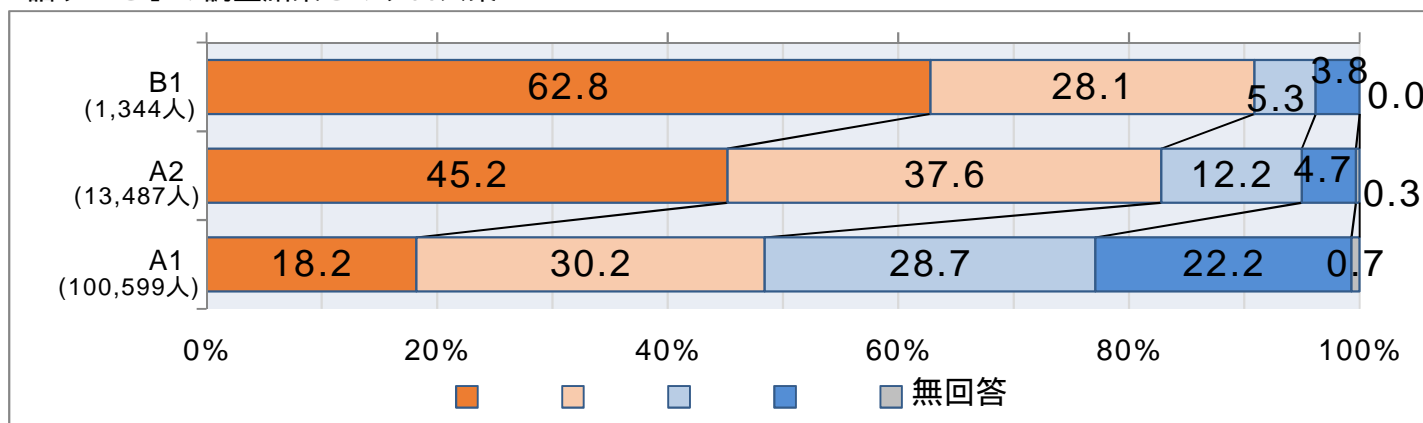
クロス集計については、4技能のうち「話すこと」「書くこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

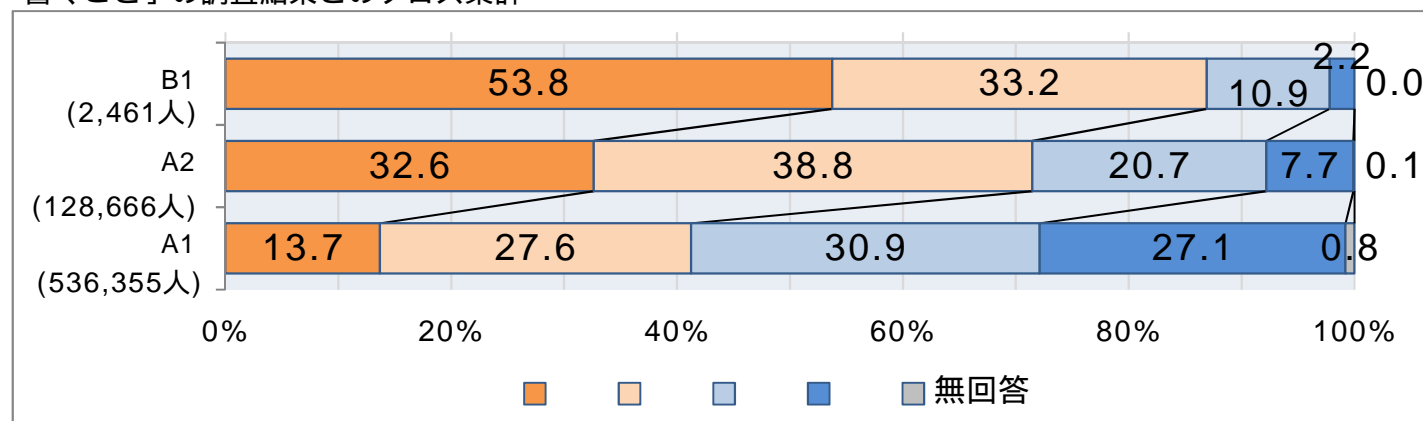
そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



#### 「話すこと」の調査結果とのクロス集



#### 「書くこと」の調査結果とのクロス集計



### 3. 英語学習に対する生徒の意識

#### 現在の英語力と将来の英語使用のイメージ

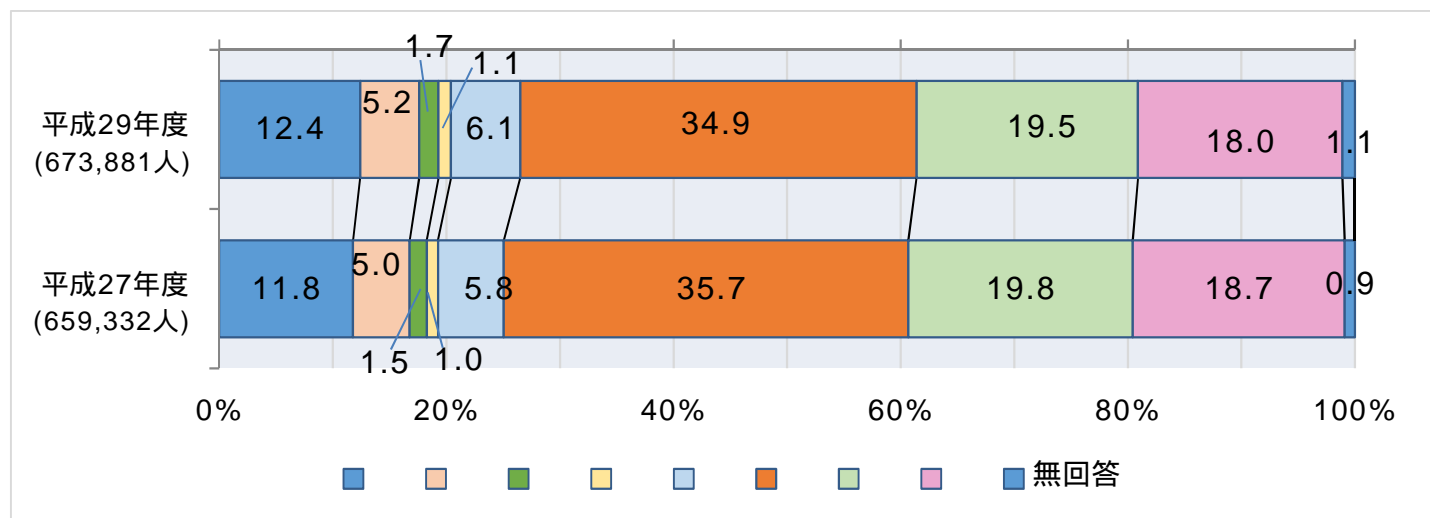
身に付けたい英語力について、「海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい」（34.9%）、「大学入試に対応できる力を付けたい」（19.5%）という回答が多い。

「話すこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい」と回答する生徒の割合が高い。

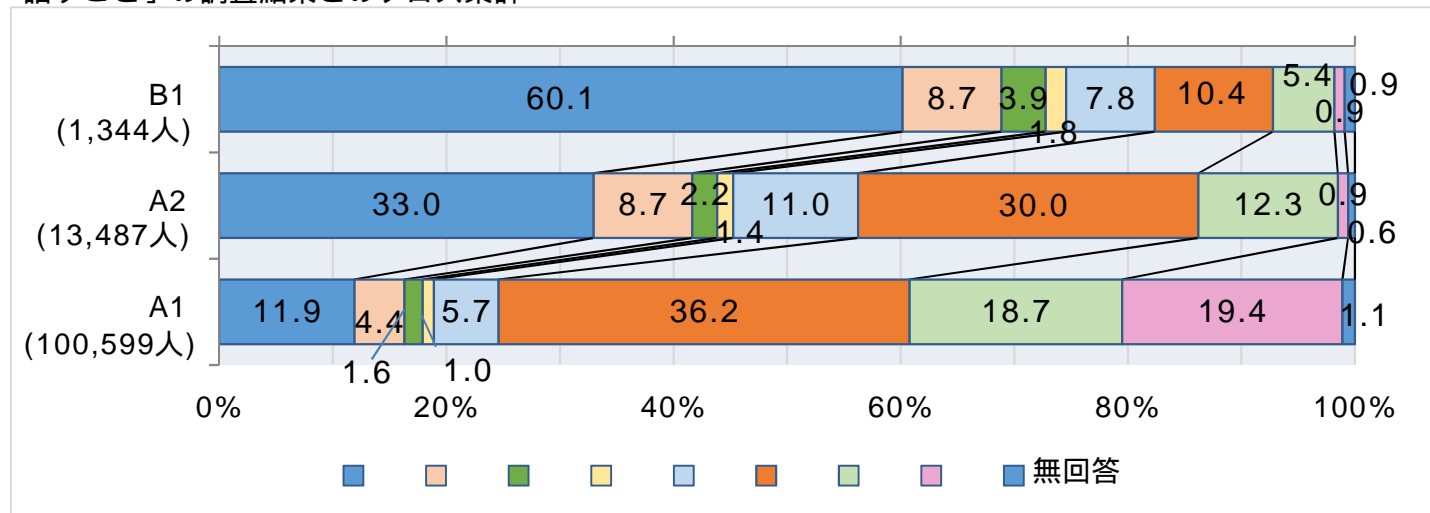
クロス集計については、4技能のうち「話すこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- 英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい
- 大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
- 高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
- 高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
- 海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
- 海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
- 大学入試に対応できる力を付けたい 特に学校の授業以外での利用を考えていない



#### 「話すこと」の調査結果とのクロス集計



## 4. 言語活動に対する生徒の意識

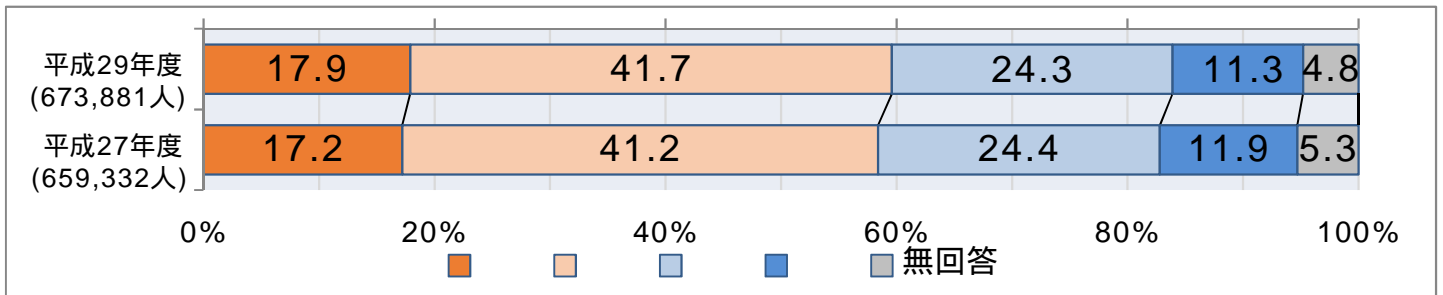
### 言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」「読むこと」

「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）は59.6%で、対一昨年度1.2ポイント増加（平成27年度は58.4%）。

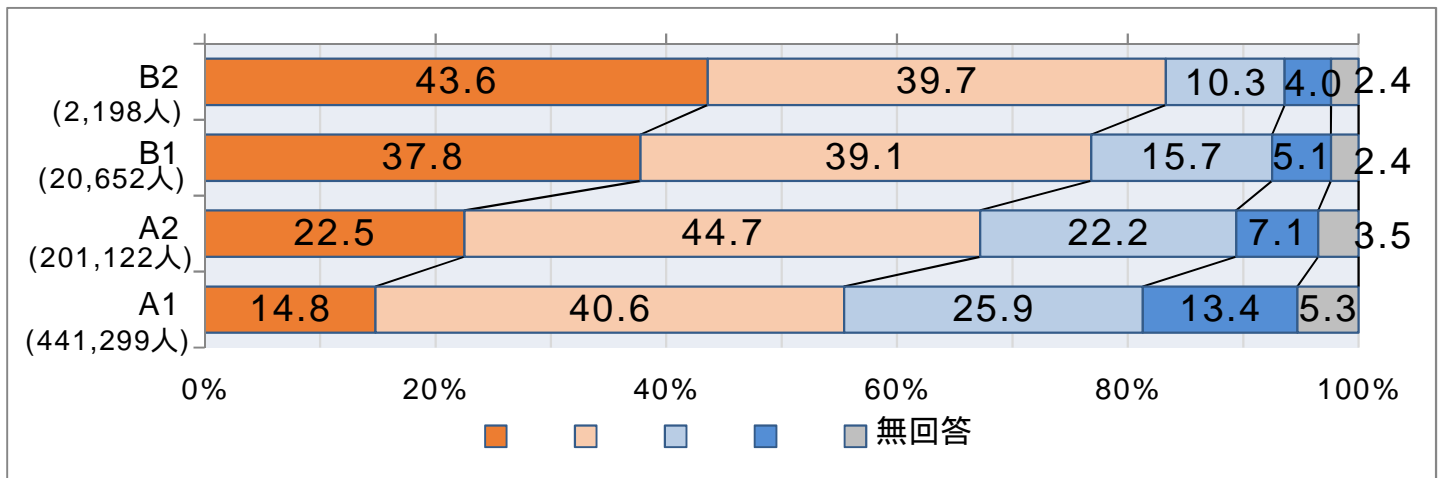
「聞くこと」「読むこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方がいずれにおいても「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

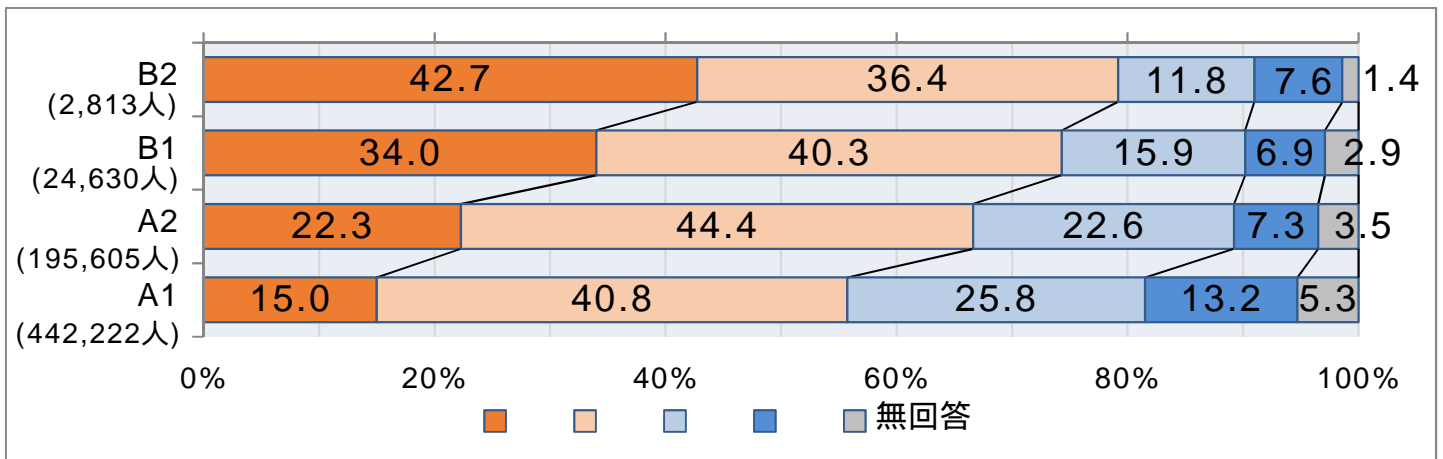
そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



### 「聞くこと」の調査結果とのクロス集計



### 「読むこと」の調査結果とのクロス集計



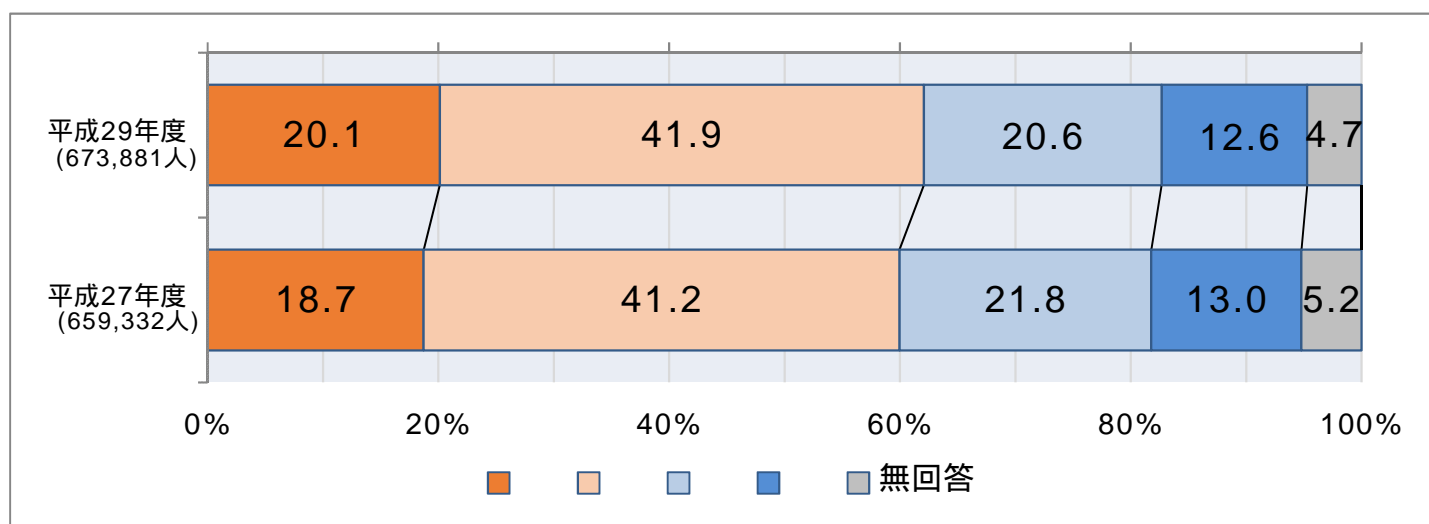
## 4 . 言語活動に対する生徒の意識

### 言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」

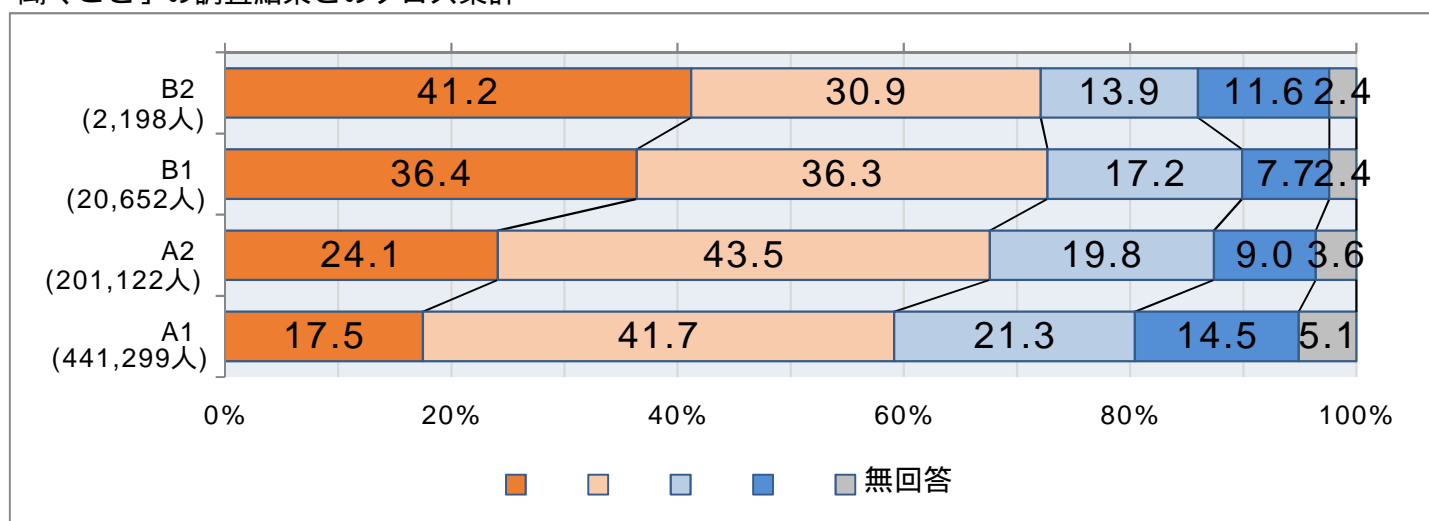
「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）は62.0%で、対一昨年度2.1ポイント増加（平成27年度は59.9%）。「聞くこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて、  
（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



### 「聞くこと」の調査結果とのクロス集計



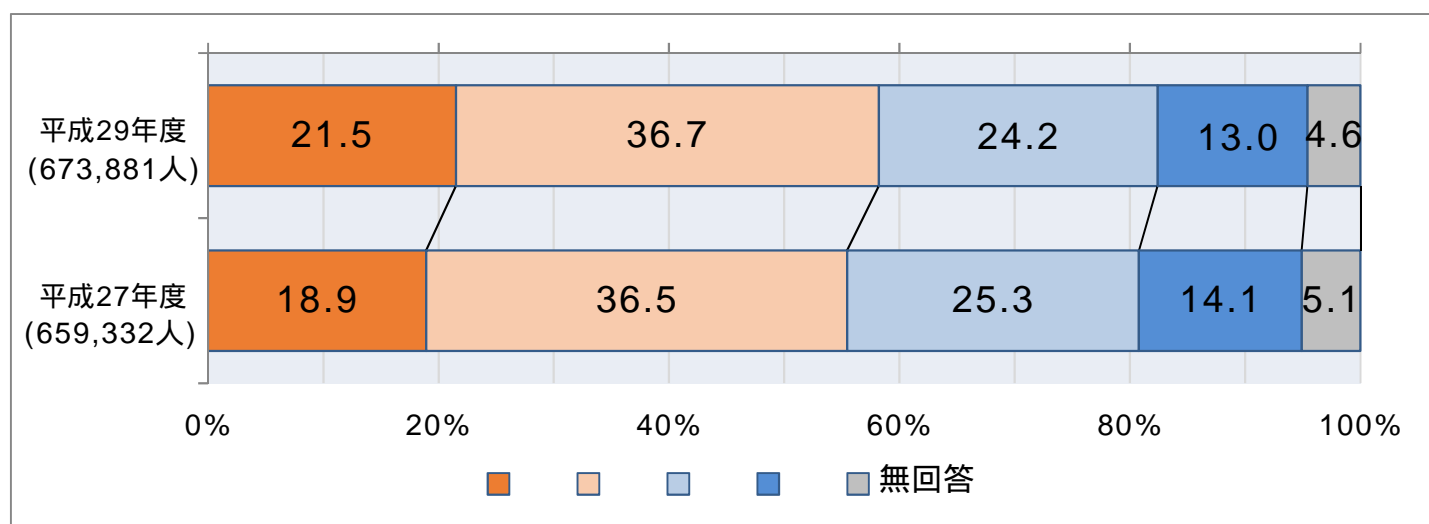
## 4 . 言語活動に対する生徒の意識

### 言語活動に対する生徒の意識「読むこと」

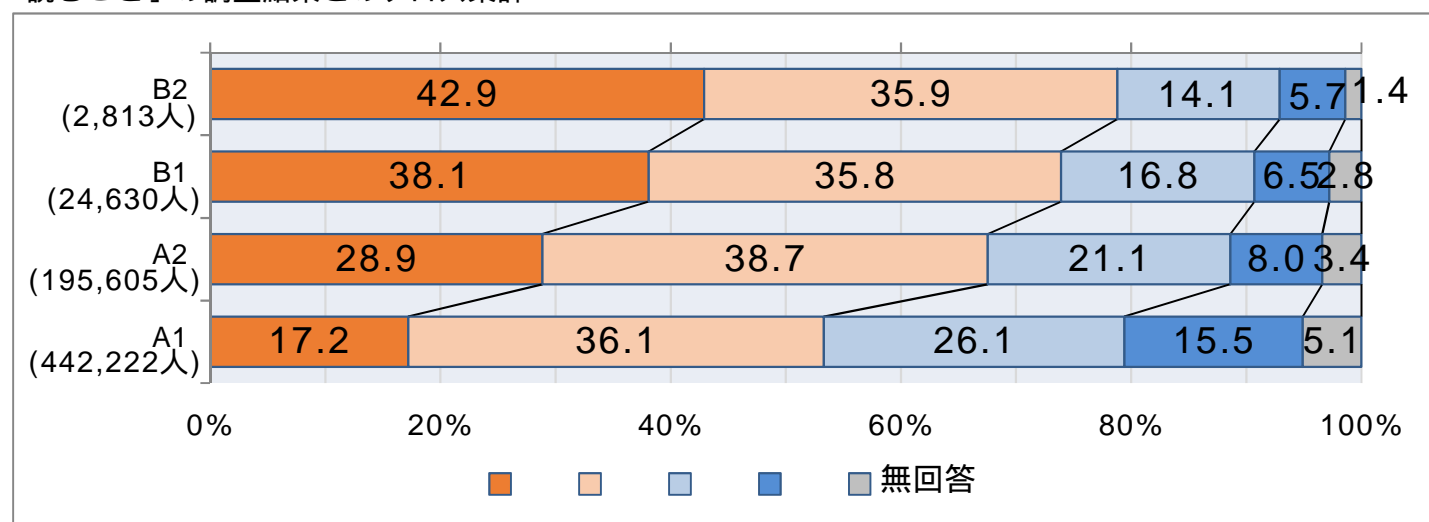
「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）は58.2%で、対一昨年度2.8ポイント増加（平成27年度は55.4%）。  
 「読むこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていましたか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



### 「読むこと」の調査結果とのクロス集計





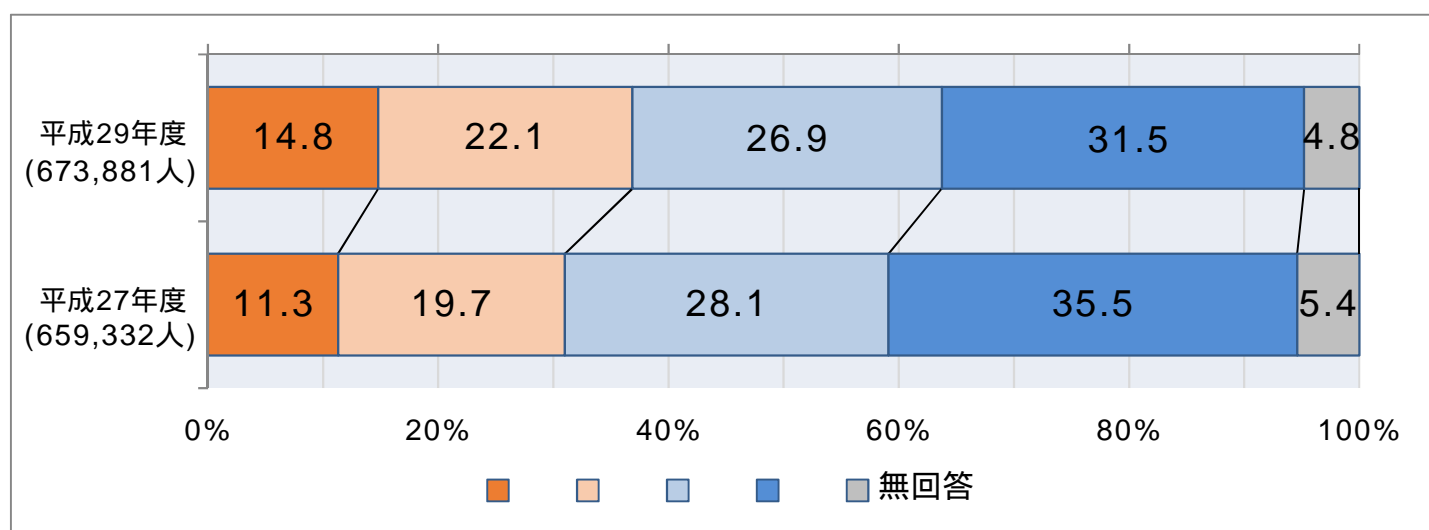
## 4 . 言語活動に対する生徒の意識

### 言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

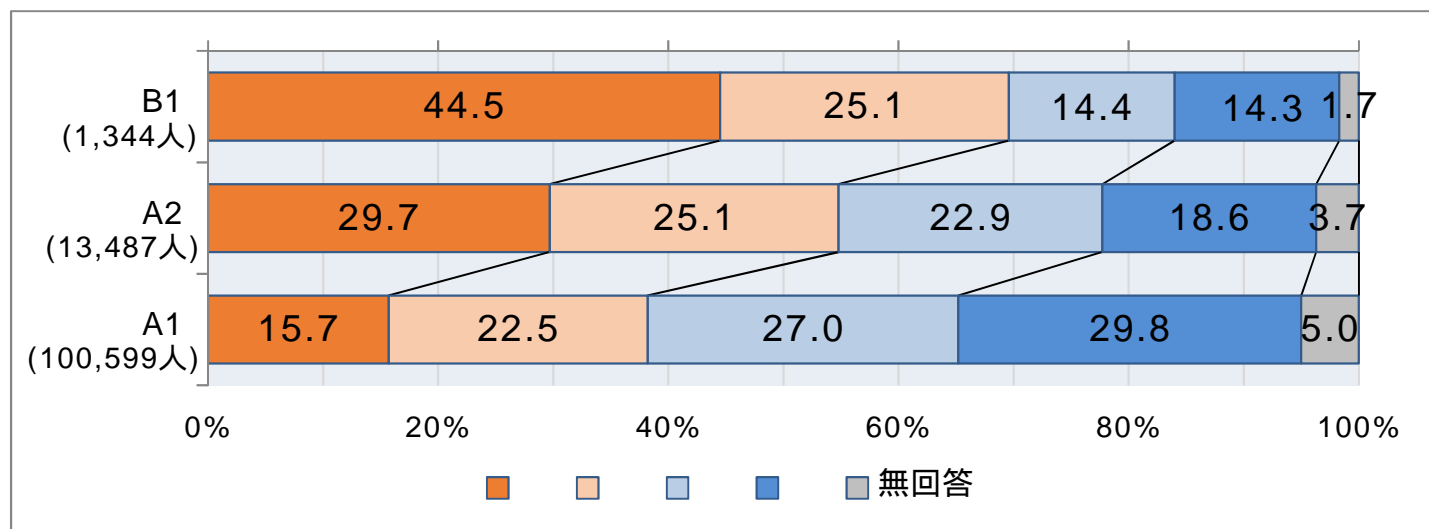
「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）は36.9%で、対一昨年度5.9ポイント増加（平成27年度は31.0%）。  
 「話すこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



「話すこと」の調査結果とのクロス集計



## 4 . 言語活動に対する生徒の意識

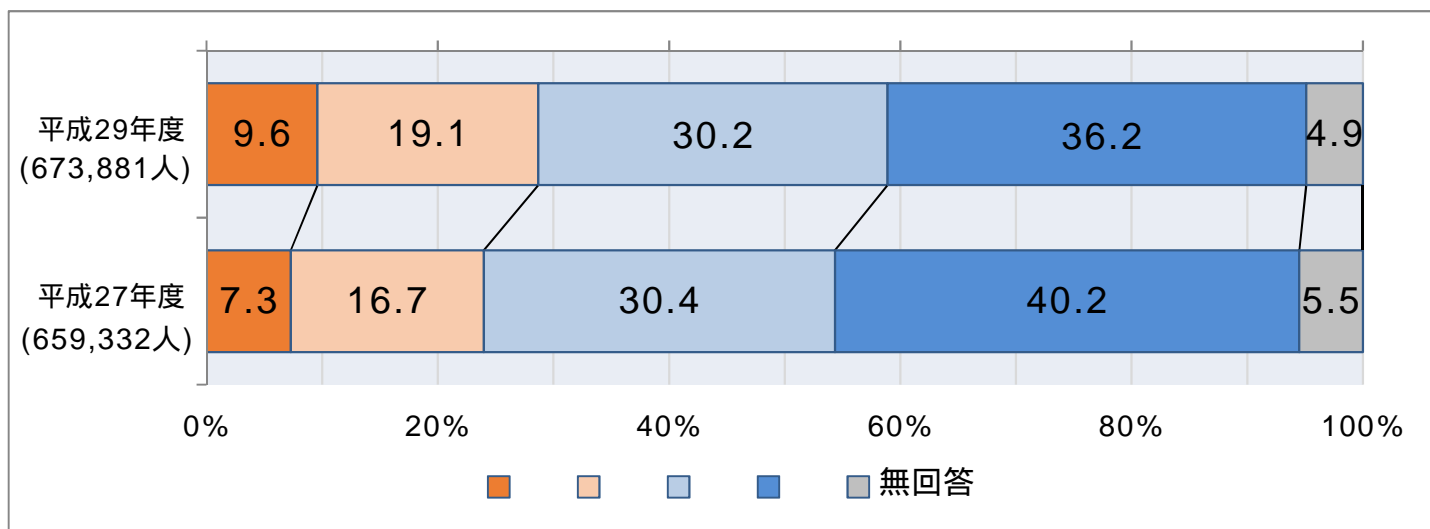
### 言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）は28.7%で、対一昨年度4.7ポイント増加（平成27年度は24.0%）。

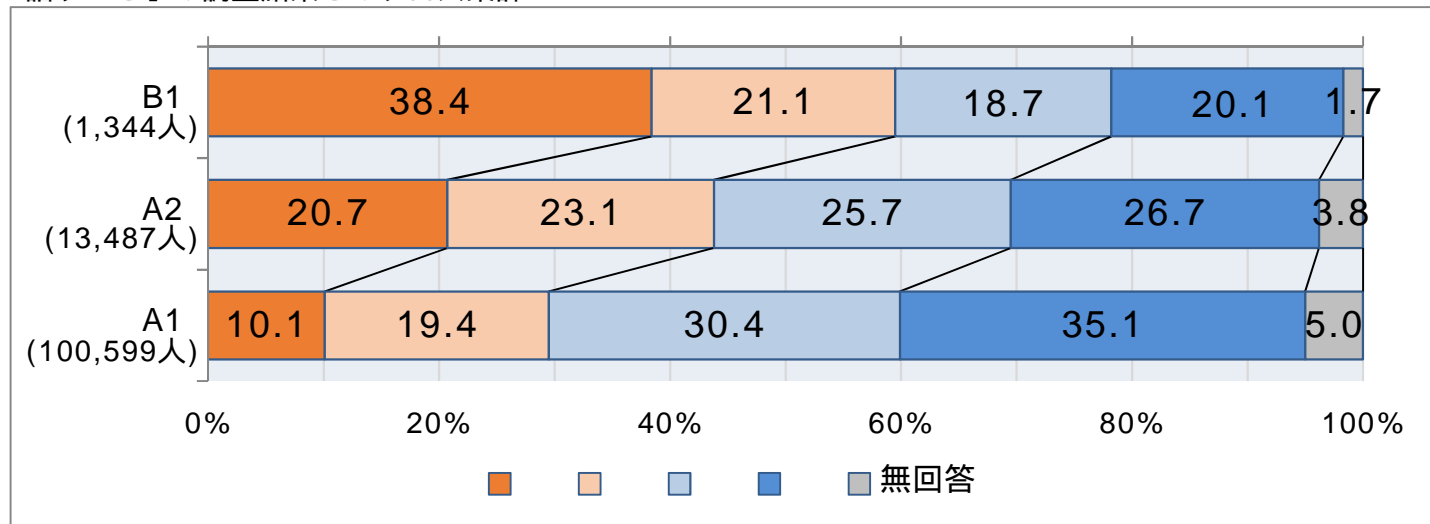
「話すこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



「話すこと」の調査結果とのクロス集計



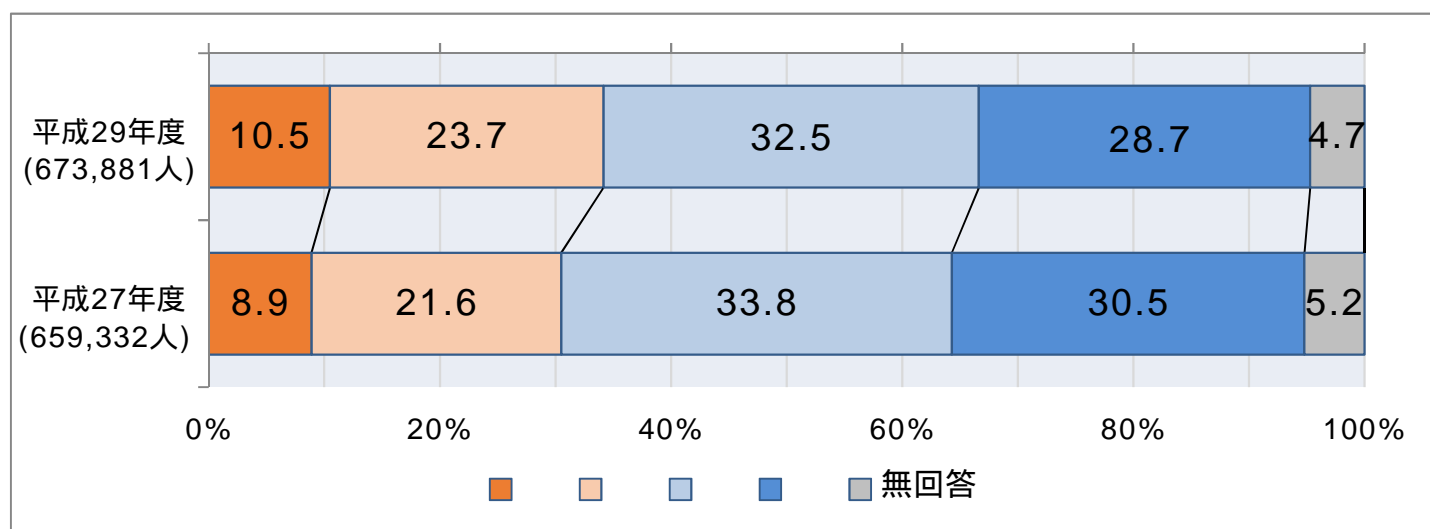
## 4 . 言語活動に対する生徒の意識

### 言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

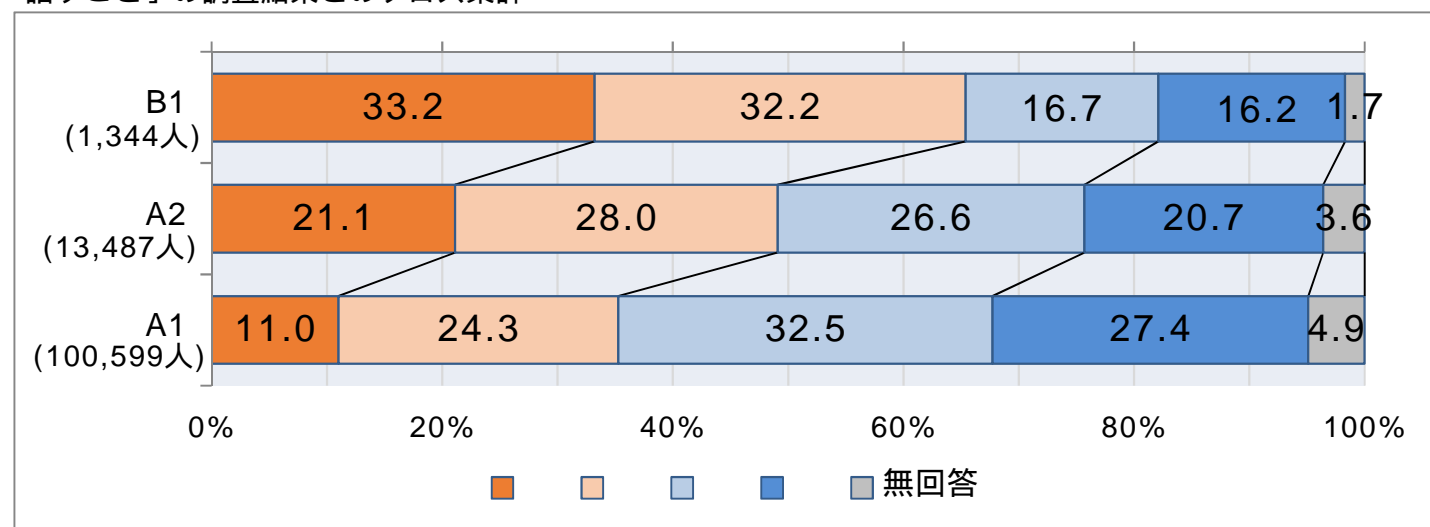
「与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）は34.2%で、対一昨年度3.7ポイント増加（平成27年度は30.5%）。「話すこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、  
（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていましたか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



### 「話すこと」の調査結果とのクロス集計



## 4 . 言語活動に対する生徒の意識

### 言語活動に対する生徒の意識

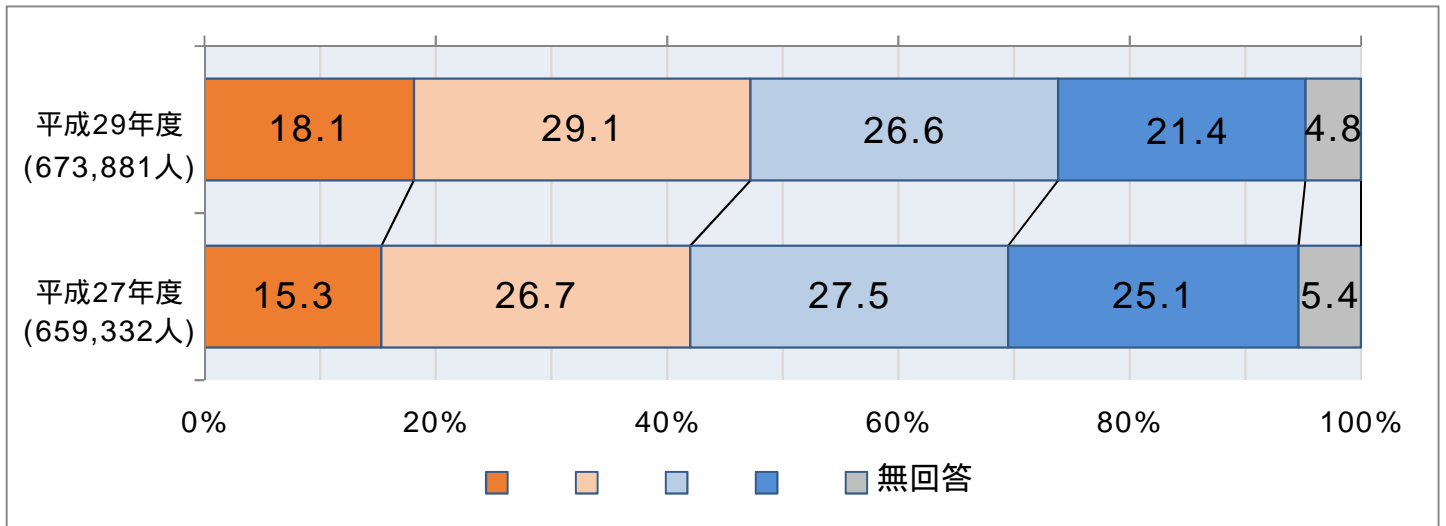
技能統合型：「聞くこと」「読むこと」「話すこと」

「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）が47.2%で、対一昨年度5.2ポイント増加（平成27年度は42.0%）。

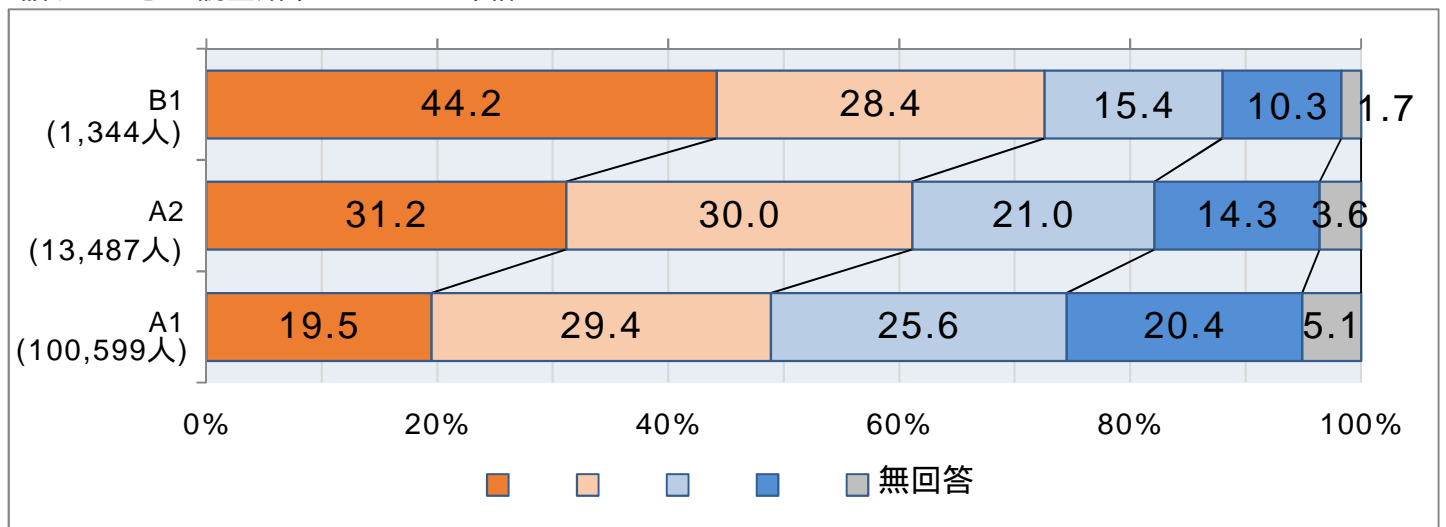
「話すこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていませんか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



「話すこと」の調査結果とのクロス集計



## 4 . 言語活動に対する生徒の意識

### 言語活動に対する生徒の意識

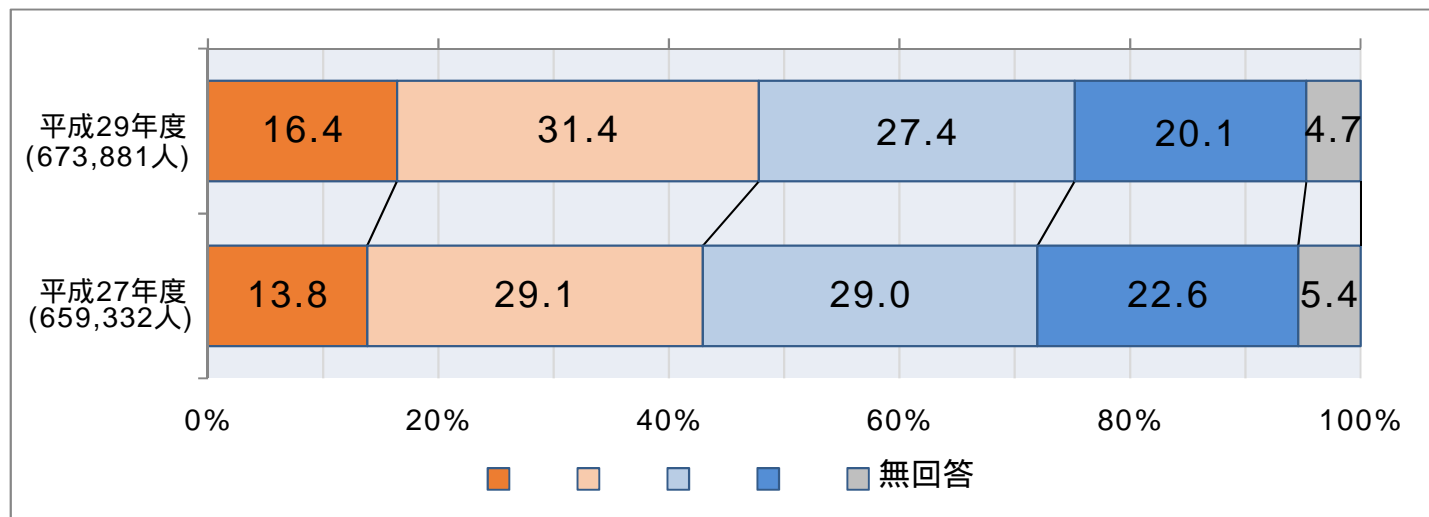
技能統合型：「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答した生徒（選択肢 合計）は47.8%で、対一昨年度4.9ポイント増加（平成27年度は42.9%）。

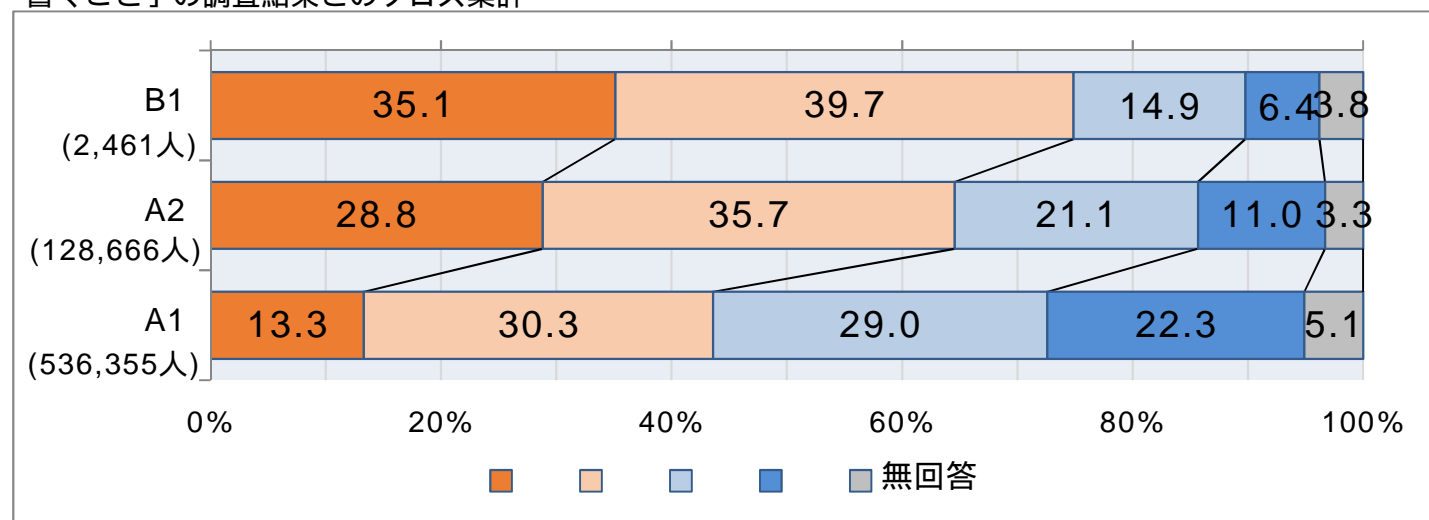
「書くこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答する生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない



「書くこと」の調査結果とのクロス集計



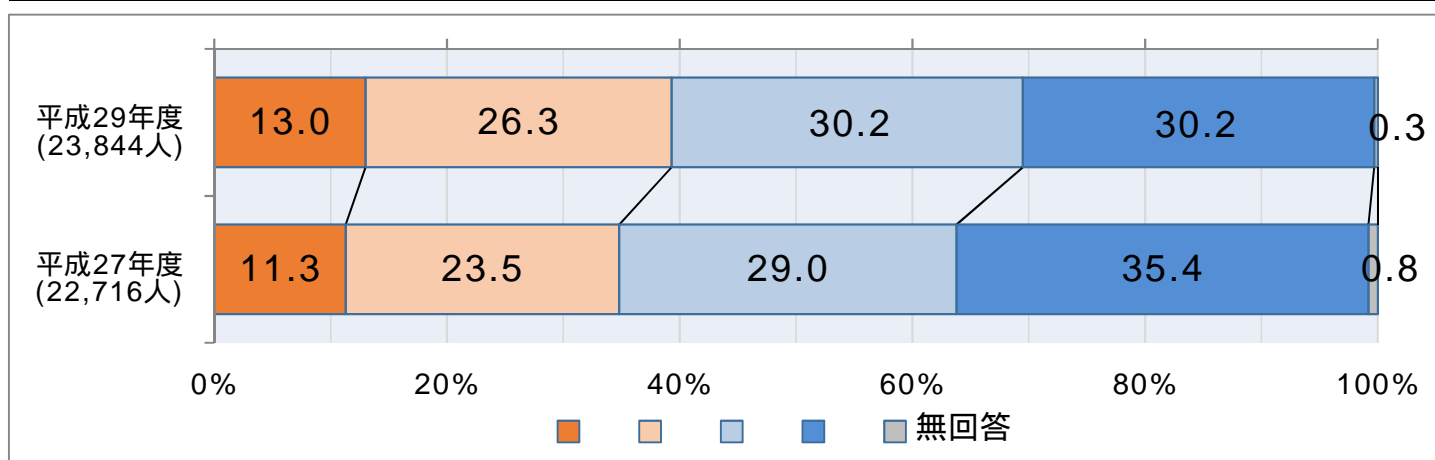
## 5. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識

### 授業における言語活動の指導「話すこと」

「スピーチやプレゼンテーションを行っている」と回答した教員（選択肢 合計）は39.3%  
 で、対一昨年度4.5ポイント増加（平成27年度は34.8%）。  
 「ディベートやディスカッションを行っている」と回答した教員（選択肢 合計）は13.5%  
 で、対一昨年度2.4ポイント増加（平成27年度は11.1%）。

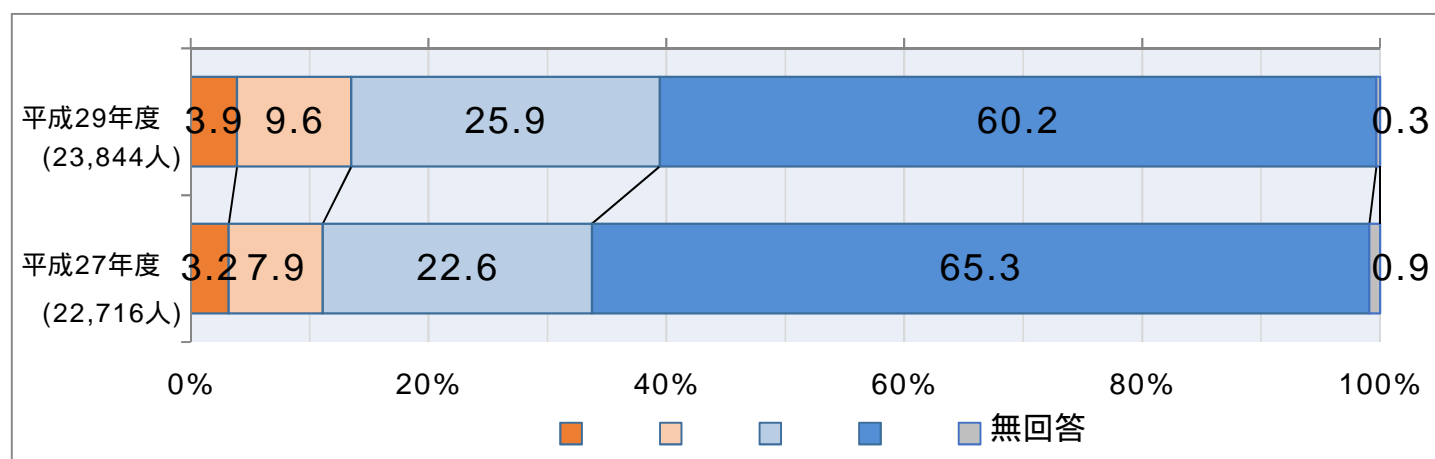
問 スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

よくしている      どちらかといえば、している      あまりしていない      ほとんどしていない



問 ディベートやディスカッションを行っていますか。

よくしている      どちらかといえば、している      あまりしていない      ほとんどしていない



## 5. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識

### 授業における言語活動の指導

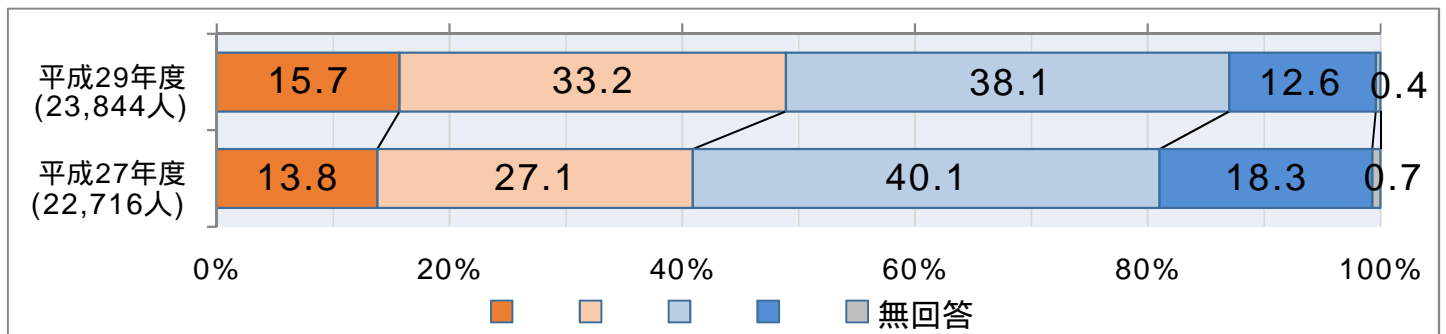
技能統合型：「聞くこと」「読むこと」「話すこと」

英語の授業で「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動」を行っている教員（選択肢 合計）は48.9%で、対一昨年度8.0ポイント増加（平成27年度は40.9%）。

生徒の調査結果とのクロス集計を見ると、「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動」を行っているとは回答した教員の割合が多い学校の方が、「話すこと」だけでなく「聞くこと」「読むこと」についても生徒の得点が高い。

問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

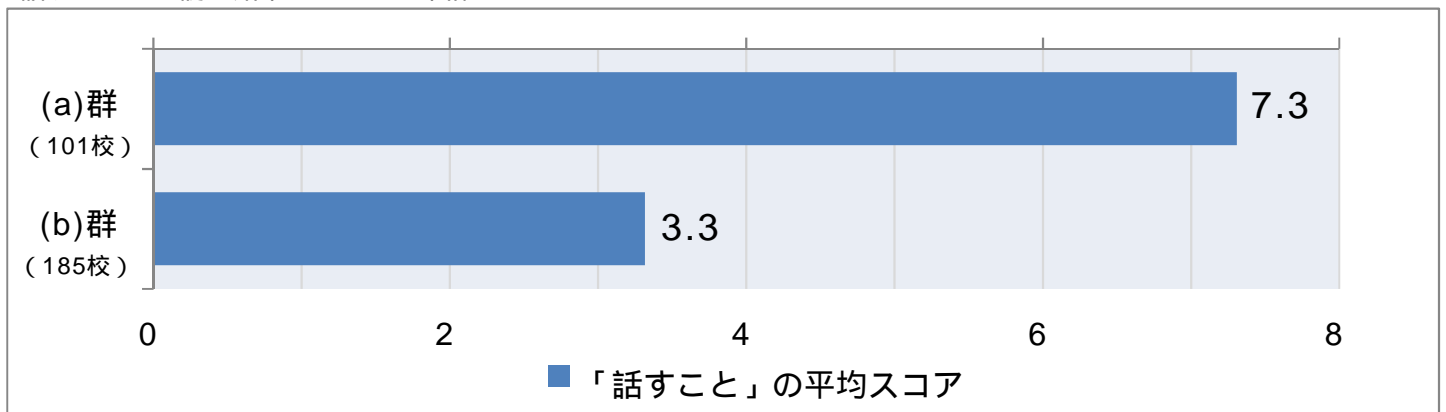
よくしている    どちらかといえば、している    あまりしていない    ほとんどしていない



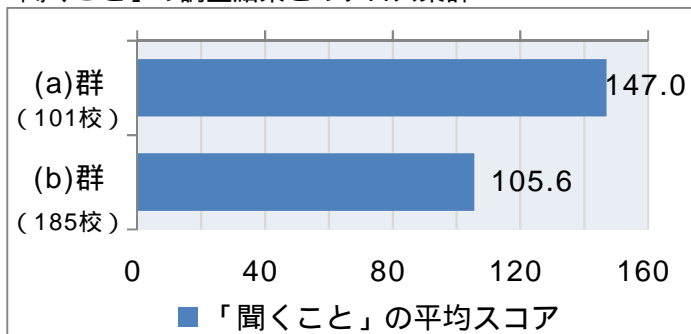
### (a)群と(b)群の調査結果とのクロス集計

- ・ (a)群 ... 「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動」を行っているとは回答した教員（選択肢 合計）が50%以上の学校
- ・ (b)群 ... (a)以外の学校

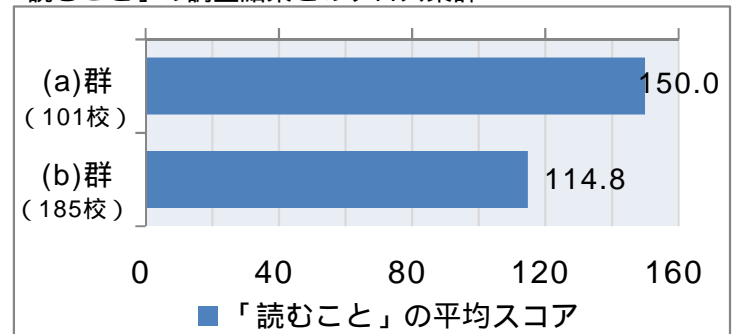
「話すこと」の調査結果とのクロス集計



「聞くこと」の調査結果とのクロス集計



「読むこと」の調査結果とのクロス集計



## 5. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識

### 授業における言語活動の指導

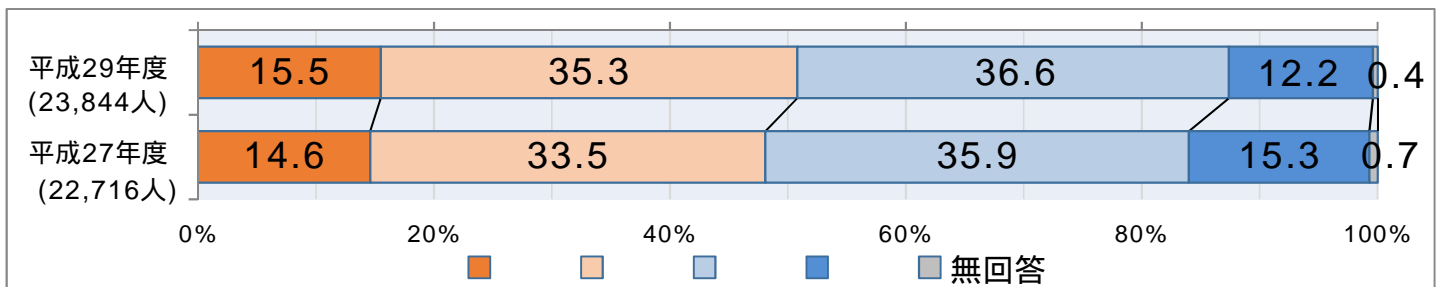
技能統合型：「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

英語の授業で「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動」を行っている」と回答した教員（選択肢 合計）は50.8%で、対一昨年度2.7ポイント増加（平成27年度は48.1%）。

生徒の調査結果とのクロス集計を見ると、「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動」を行っている」と回答した教員の割合が多い学校の方が、「書くこと」だけでなく「聞くこと」「読むこと」についても生徒の得点が高い。

問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

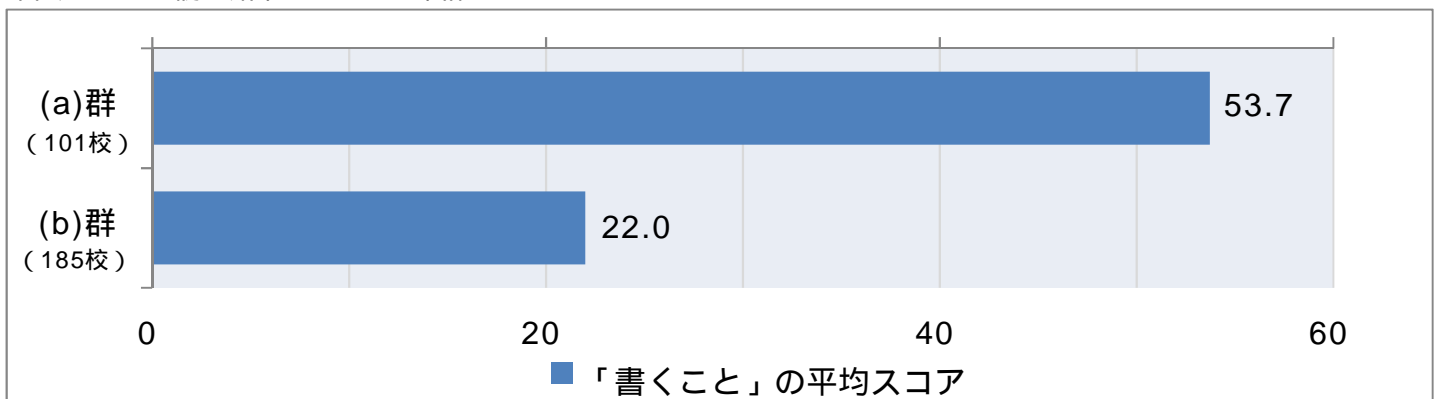
よくしている    どちらかといえば、している    あまりしていない    ほとんどしていない



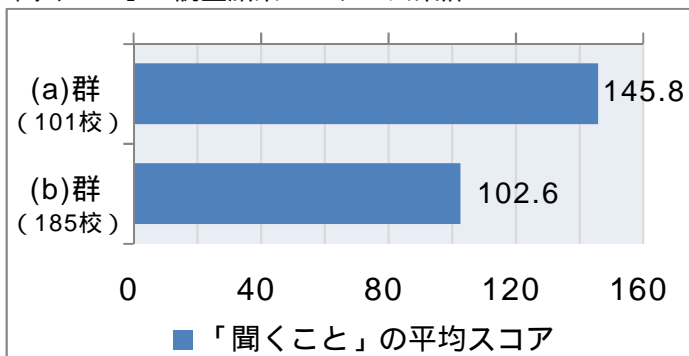
### (a)群と(b)群の調査結果とのクロス集計

- ・ (a)群 ... 「聞いたり読んだりしたことなどについて、情報や考えなどについて、書く活動」を行っている」と回答した教員（選択肢 合計）が50%以上の学校
- ・ (b)群 ... (a)以外の学校

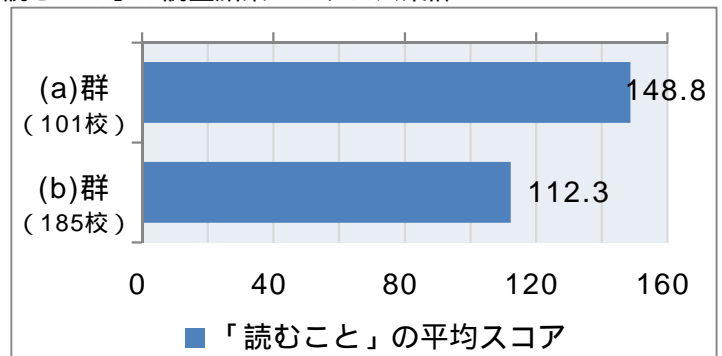
### 「書くこと」の調査結果とのクロス集計



### 「聞くこと」の調査結果とのクロス集計



### 「読むこと」の調査結果とのクロス集計





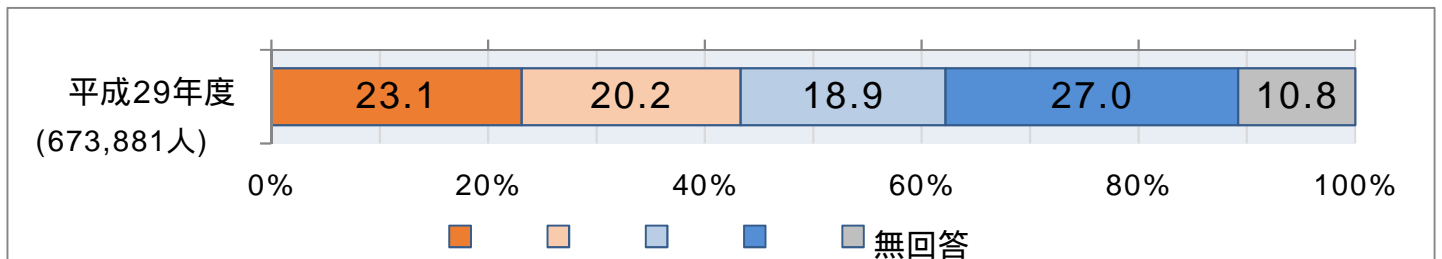
## 6. 中学校外国語学習の経験

### 中学校での英語学習に対する生徒の意識

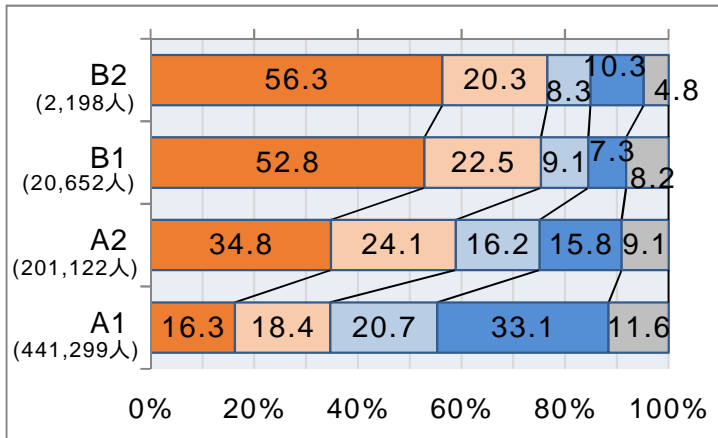
「中学生の時、英語の授業が好きであった」と回答した生徒（選択肢 合計）は43.3%。  
 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の調査結果とのクロス集計を見ると、得点が高い方が「中学生の時、英語の授業が好きであった」と回答する生徒の割合が高い。

問 中学生の時、英語の授業は好きでしたか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

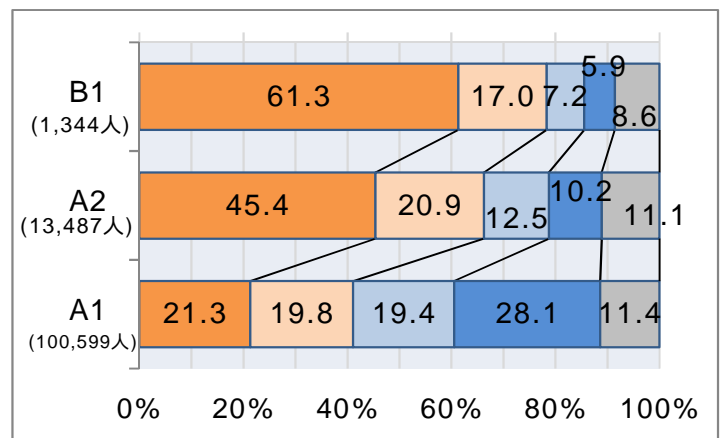
そう思っていた      どちらかといえば、そう思っていた  
 どちらかといえば、そう思っていなかった      そう思っていなかった



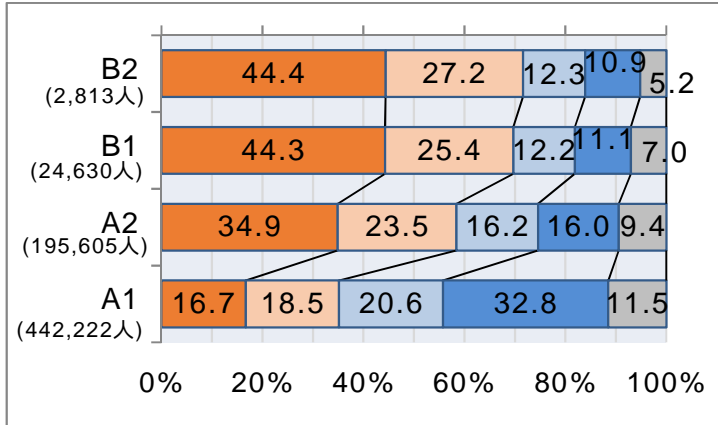
「聞くこと」の調査結果とのクロス集計



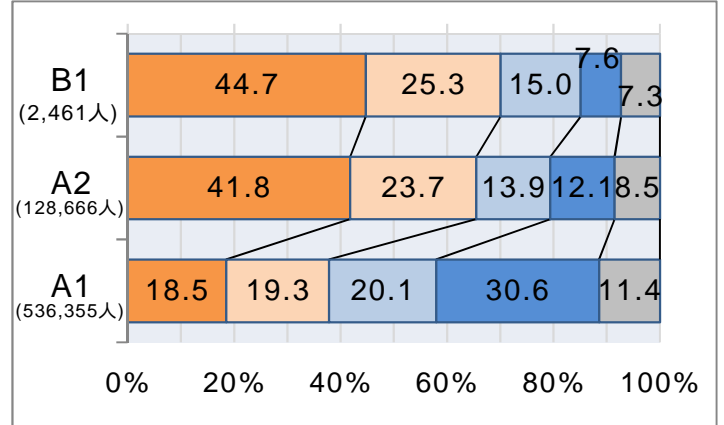
「話すこと」の調査結果とのクロス集計



「読むこと」の調査結果とのクロス集計



「書くこと」の調査結果とのクロス集計



## 6. 中学校外国語学習の経験

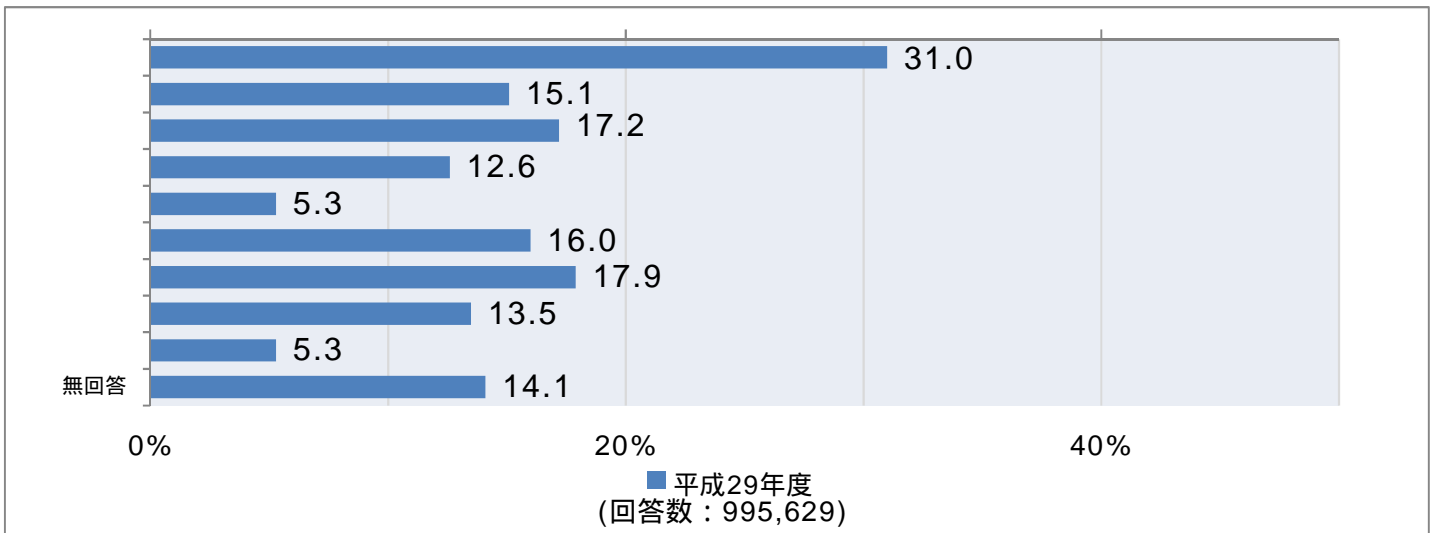
### 中学校での英語学習に対する生徒の意識

中学生の時、英語の授業の中で楽しいと思ったこととして、「外国のことについて学ぶこと」（選択肢）と回答した生徒が31.0%、「英語で外国人の先生と会話すること」（選択肢）と回答した生徒が17.9%、「英語で友達と会話をする」（選択肢）と回答した生徒が17.2%と多い。

中学校で学んだことの中で高校の英語の授業で役に立ったこととして、「英語で簡単な会話をする」（選択肢）と回答した生徒が36.6%、「英語の文法について学ぶこと」（選択肢）と回答した生徒が31.4%、「英語で単語や文、文章などを書くこと」（選択肢）と回答した生徒が29.3%と多い。

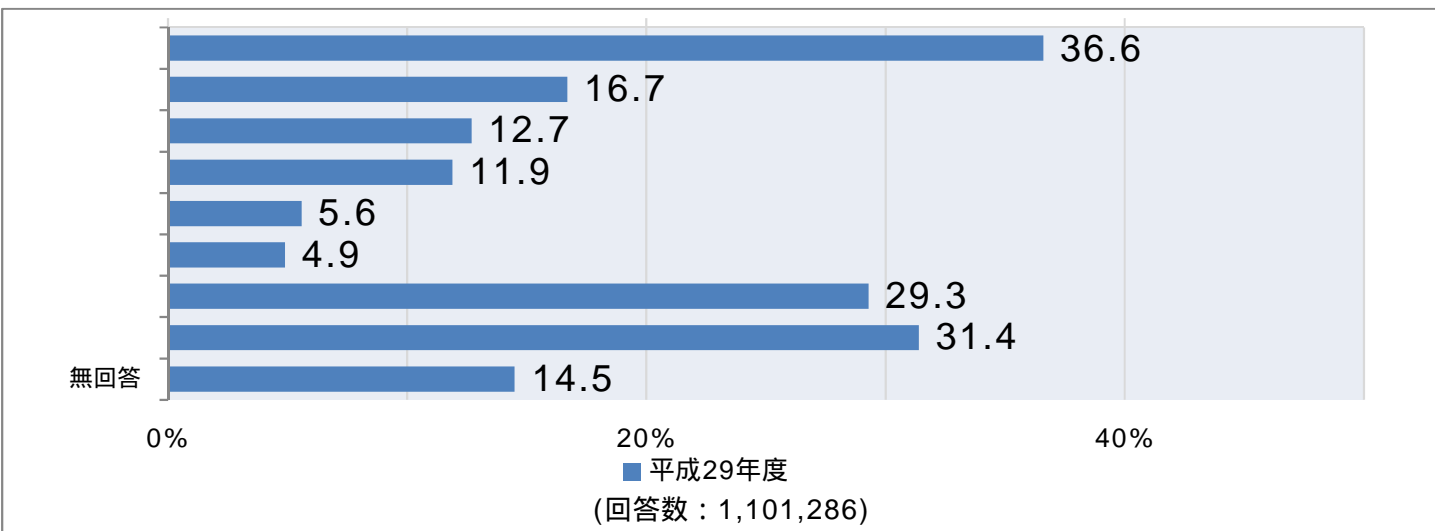
問 中学生の時、英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことでしたか（3つまで選択可）。

外国のことについて学ぶこと 日本語と英語の違いを知ること 英語で友達と会話すること  
 英語の発音を練習すること 英語で友達や先生などの人の意見を聞くこと 英語の文章を読むこと  
 英語で外国人の先生と会話すること 英語で単語や文、文章などを書くこと 英語で自分のことや意見を言うこと



問 中学校の英語の授業で学んだことの中で、高校の英語の授業で役に立ったことはありますか（3つまで選択可）。

英語で簡単な会話をする 英語の発音を練習すること 友達や先生などが英語で話しているのを聞くこと  
 外国のことについて学ぶこと 英語で質問したり意見を言ったりすること 皆の前で、英語で発表すること  
 英語で単語や文、文章などを書くこと 英語の文法について学ぶこと



## 7 . 調査問題の構成

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・43問（約45分）
- 「聞くこと」：多肢選択式・4パート構成・36問（約23分）
- 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（約27分）
- 「話すこと」：口述式・3パート構成・6問（約10分） 英語担当教員等が面接を実施

	Reading 「読むこと」	Listening 「聞くこと」	Writing 「書くこと」	Speaking 「話すこと」
測定する力	<p style="color: red; margin: 0;"><b>実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力</b></p> <p style="margin: 0;">（「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力）</p>			
問題構成	<p>語彙・語法問題 14問 （単文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力） A2～B1相当</p>	<p>写真説明問題 8問 （視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける力） A2相当</p>	<p>意見展開問題 1問 （与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例をもとに意見と理由を述べる力） A2～B1相当</p>	<p>音読問題 1問 （適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話す力） A1相当</p>
	<p>概要把握問題 6問 （与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力） A2～B1相当</p>	<p>会話応答問題 8問 （不意の問いかけに回答する適当な英文を素早く判断し、処理できる力） A2～B1相当</p>	<p>情報要約問題 1問 （英文音声で聞いた情報を理解し、指定語数で要約して書く力） B1～B2相当</p>	<p>質疑応答問題 4問 （試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力） A2～B1相当</p>
	<p>情報検索問題 8問 （与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力） A2～B1相当</p>	<p>課題解決問題 10問 （日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力） A2～B1相当</p>		<p>意見陳述問題 1問 （与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力） ～B2相当</p>
	<p>要点理解問題 15問 （まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力） B1～B2相当</p>	<p>要点理解問題 10問 （英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力） A2～B1相当</p>		

「読むこと」の概要把握問題と情報検索問題は同一パート

**【問題の特徴】****~ Reading Part A ~****R****Part A  
語彙・語法問題**

単文中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な表現を判断する問題。

**CEFR : A2 ~ B1**

9. Tyler said that many teachers had had a positive impact on his life, and of those, Mr. Smith, his English teacher, had \_\_\_\_\_ him the most.

- [A] influenced
- [B] mentioned
- [C] proposed
- [D] refused

**正答****A****解答類型と反応率**

選択肢	A1レベル反応率	A2レベル反応率
A (正解)	29.4%	68.4%
B	22.8%	15.1%
C	24.7%	10.8%
D	14.1%	3.7%
無解答	9.0%	2.0%

A1レベルの正解選択率は29.4%。一方、A2レベルは68.4%と39.0ポイントの差があった。A1レベルの誤答は、選択肢 [C] が最も多く24.7%であった。

【問題の特徴】

~ Reading Part B ~

R

Part B  
情報検索問題

与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す問題。

CEFR: A2 ~ B1

高等学校学習指導要領 外国語より | 「読むこと」コミュニケーション英語 (1)(イ) 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。/ コミュニケーション英語 (1)(イ) 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。

**Westville Mall: March Newsletter**

*Spring is in the air, and that means one thing: it's time for Westville Mall's Spring Sale! Every day, from March 25 to March 30, you can find discounts on many popular items. Some of them are listed here, but you'll have to visit the mall to discover the many more bargains that other shops are offering.*

*Also, the program that both kids and their parents love is back by popular demand: Spring Vacation Activities for Kids! Children are safe in our hands while adults enjoy the delights of the Spring Sale. Come on down!*

Store	Item	Discount
Mark's Market	Grape juice	Spend over \$15 on grape juice and you will receive a Mark's Market \$5 gift certificate!
Slim Gym	Balance balls	20% off!
Goldie Art	Coloring books	10% off all coloring books \$10 and above.
Super Sports	Children's bicycles	50% off!

**Spring Vacation Activities for Kids**

This spring, children can have fun at the mall while adults enjoy shopping! All kids' activities are free!

Date	March 25	March 26	March 27	March 28
Time	All activities run from 2:00 to 3:00 pm.			
Name	Bear Hugs	Dream in Chocolate	Flower Power	Toy Maniacs
Activity	Meet the popular Barton Bears characters.	Learn how to make chocolate cake!	Kids' holiday crafts: making paper flowers.	Tips to help you take better care of your toys.
For ages	1 to 9	10 and over	6 and over	6 and over
Remarks		Bring an apron.		Bring your favorite toy.
Location	Westville Bookstore	Sweetie's Chocolates	Butler's Craft World	Toymarket
Advance sign-up required?	No	Yes*	Yes*	No

\*Please sign up by March 20 on our website: www.westvillemall.com.

- 1 -

21. If you wanted to buy a coloring book that usually costs \$20 from Goldie Art, how much would you pay during the Spring Sale?

- [A] \$10.
- [B] \$15.
- [C] \$18.
- [D] \$20.

正答

C

解答類型と反応率

選択肢	A1レベル反応率	A2レベル反応率
A	33.8%	15.8%
B	22.7%	6.6%
C (正解)	29.2%	74.2%
D	10.4%	1.9%
無解答	3.9%	1.5%

A1レベルの正解選択率は29.2%。一方、A2レベルは74.2%と45.0ポイントの差があった。A1レベルの誤答は、選択肢 [ A ] が最も多く33.8%であった。

R

Part C  
要点理解問題

与えられた英文の題材について、概要や要点を読み取る力を測定する問題。

CEFR: B1 ~ B2

高等学校学習指導要領 外国語より | 「読むこと」コミュニケーション英語 (1)(イ) 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。/ コミュニケーション英語 (1)(イ) 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。

Semi-nomadic people have a base camp, where they only live for a short time each year. The rest of the time, they travel according to the seasons, moving around in search of food. One such group, the semi-nomadic Moken people, live most of the year on hand-built wooden boats, called kabang, out on the seas. They return to live on islands along the coast of the country of Thailand during the rainy season, to shelter from the strong winds.

The Moken use traditional diving methods, instead of modern technology, to harvest their food from the ocean. Perhaps as a result of this, their vision when underneath the water is so good that they are able to gather tiny shellfish and other food from the ocean floor at depths of 22 m. The results of one study, in 2003, showed that Moken children using these methods have developed underwater vision that's twice as good as that of European children.

During the rainy season, Moken families live a traditional way of life on land. They grow rice and rely on forest products such as fruit, honey and wild vegetables; over 150 plant species are used for food, medicines and building materials. To reduce their impact on the environment, the Moken only take from the environment what they need to survive. Their way of life means that forest and ocean resources are not over-harvested.

Unfortunately, the Moken way of life is increasingly under threat. Companies are building hotels and making beaches around the Moken villages private, which blocks the Moken's access to the seas. Industrial fishing in the area has also meant there are fewer fish in the sea.

The Moken's incredible knowledge of the sea, winds and the cycles of the moon is not fully documented. Theirs is a spoken history, passed down to each generation through legends and songs; children learn to "read" nature through observation and experience. A film was made to help protect the Moken by making more people aware of them, and other people set up websites to document the Moken's culture.

Some Moken families have now "settled" on land, working for the tourist industry. But others still live on their kabang for most of the year. As one Moken said, "We have always lived between the land and the sea. This is what we know, who we are and where we belong."

35. According to the passage, why might Moken children see better under water than European children?
- [A] Moken children can swim deeper where the water is clearer.  
 [B] Moken children eat various foods that promote healthy vision.  
 [C] Moken children employ modern technology to explore the ocean.  
 [D] Moken children use traditional diving methods to collect food.

正答

D

## 解答類型と反応率

選択肢	A1レベル反応率	A2レベル反応率
A	19.2%	12.2%
B	25.7%	15.1%
C	28.3%	15.1%
D (正解)	22.7%	55.8%
無解答	4.1%	1.8%

A1レベルの正解選択率は22.7%。一方、A2レベルは55.8%と33.1ポイントの差があった。A1レベルの誤答は、選択肢 [C] が最も多く28.3%であったが、各選択肢に解答が分散した。

【問題の特徴】

~ Listening Part A ~

L

Part A  
写真説明問題

写真で与えられた視覚的情報をもとに、単文レベルの英文を聞き分ける問題。

CEFR : A2

高等学校学習指導要領 外国語より | 「聞くこと」コミュニケーション英語 (1)(ア) 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 / コミュニケーション英語 (1)(ア) 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

5.



- [A]
- [B]
- [C]

<スクリプト>

- [A] A man is holding some boxes and a woman is laughing with bags in her hand.
- [B] A man is passing boxes to a woman while she is driving a car.
- [C] A man is putting bags into the back of a car while a woman is waiting.

正答

A

解答類型と反応率

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A (正解)	46.5%	92.9%
B	36.8%	5.0%
C	14.8%	2.1%
無解答	2.0%	0.0%

A1レベルの正解選択率は46.5%。一方、A2レベルは92.9%と46.4ポイントの差があった。A1レベルの誤答は、選択肢 [ B ] が最も多く36.8%であった。

~ Listening Part B ~

L

Part B  
会話応答問題

不意の問いかけに応答する適当な英文を素早く判断する問題。

CEFR : A2 ~ B1

9. [A]  
[B]  
[C]

<スクリプト>

- How many more students can take the dance class?  
[A] It lasts for two hours.  
[B] No more than ten.  
[C] Take as many classes as you want.

正答

B

解答類型と反応率

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A	22.6%	2.6%
B (正解)	45.4%	93.9%
C	30.0%	3.5%
無解答	2.0%	0.0%

A1レベルの正解選択率は45.4%。一方、A2レベルは93.9%と48.5ポイントの差があった。A1レベルの誤答は、選択肢 [ C ] が最も多く30.0%であった。

【問題の特徴】

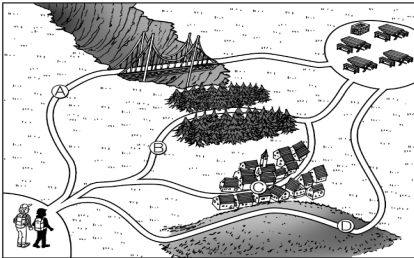
~ Listening Part C ~

L

Part C  
課題解決問題

日本語で事前に与えられる状況設定およびイラストと放送される英文から、その場で求められているタスク（課題）を解決する力を測定する問題。 **CEFR: A2~B1**

高等学校学習指導要領 外国語より | 「聞くこと」コミュニケーション英語 (1)(ア) 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 / コミュニケーション英語 (1)(ア) 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。



17. Which route will you take?

- [A] (A)
- [B] (B)
- [C] (C)
- [D] (D)

< スクリプト >

[Female Japanese student(F), Male American Adult(M)]

F: Let's cross the valley bridge.

M: It's closed. We can walk over the hill.

F: That's hard. Let's go through the village.

M: No. (sounds disgusted) There's construction work everywhere! How about walking through the forest?

F: OK.

正答

B

解答類型と反応率

選択肢	A1レベル反応率	A2レベル反応率
A	13.3%	1.0%
B (正解)	56.8%	95.4%
C	18.2%	1.4%
D	10.2%	2.2%
無解答	1.4%	0.0%

A1レベルの正解選択率は56.8%。一方、A2レベルは95.4%と38.6ポイントの差があった。A1レベルの誤答は、選択肢 [C] が最も多く18.2%であった。

~ Listening Part D ~

L

Part D  
要点理解問題

一定の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、適切な判断をする問題。 **CEFR: A2~B1**

高等学校学習指導要領 外国語より | 「聞くこと」コミュニケーション英語 (1)(ア) 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 / コミュニケーション英語 (1)(ア) 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

31. What item is the cafeteria providing for free?

- [A] Hot chocolate.
- [B] Sandwiches.
- [C] Soup.
- [D] Potato chips.

正答

A

< スクリプト >

Welcome to Funland, the oldest amusement park around. Unfortunately, due to the heavy rain, the water ride is closed. However, the park train will continue running. Why not visit the wax museum to shelter from the rain? Or stay dry while visiting the music hall? As a special gift today, our cafeteria is offering hot chocolate free of charge until the park closes. At the cafeteria, you can also buy other delicious food. There are wonderful sandwiches, and the soup is fantastic. And don't forget the fresh potato chips!

解答類型と反応率

選択肢	A1レベル反応率	A2レベル反応率
A (正解)	29.4%	63.2%
B	20.4%	5.9%
C	20.9%	7.4%
D	27.2%	23.5%
無解答	2.1%	0.2%

A1レベルの正解選択率は29.4%。一方、A2レベルは63.2%と33.8ポイントの差があった。A1レベルの誤答は、選択肢 [D] が最も多く27.2%であったが、各選択肢に解答が分散した。



## 【問題の特徴】

## ~ Writing ~

W

意見展開問題

与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見や考えを説得力を持って書いて表現する力を測定する問題。

CEFR : A2 ~ B1

高等学校学習指導要領 外国語より | 「書くこと」コミュニケーション英語 (1)(エ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 / コミュニケーション英語 (1)(エ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 / 英語表現 (1)(イ) 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。

あなたは授業中に、下記のテーマで英語のエッセーを提出することになりました。

エッセーのテーマ：

学生は自分たちが使った教室を自分たちで掃除するべきだ、という意見について、あなたはどのように思いますか。あなたの意見とその理由を書きなさい。



### 解答例

I think it is a good idea for students to clean their own classrooms. I have two reasons for this.

First, when students have to take care of their own classroom as a group, they learn responsibility and cooperation. They must work together and help each other so the work can get done. For example, some students clean the windows, while other students clean the floor or empty the garbage cans.

All of these jobs are different, but each of them must be done to finish cleaning the classroom.

Second, cleaning is a skill that is important for our future lives. Many students will live alone someday.

If they have already learned good cleaning habits at school, it will be much easier to keep their own houses clean.

For these reasons, I think students should clean their classrooms.

### 得点と割合

項目：「内容」

意見

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	72.3%	8.8%
1	27.7%	91.2%

理由

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	44.0%	0.0%
1	56.0%	100.0%

項目：「表現」

語彙

得点	割合
0	15.7%
1	38.1%
2	45.8%
3	0.4%
4	0.0%

文法

得点	割合
0	24.3%
1	38.5%
2	37.0%
3	0.2%
4	0.0%

項目：「構成」

得点	割合
0	38.4%
1	25.0%
2	36.2%
3	0.4%
4	0.0%

A1レベルでは、意見を書けた生徒は27.7%。理由を書けた生徒は56.0%であった。  
A2レベルでは、意見を書けた生徒は91.2%。理由を書けた生徒は100%であった。  
項目「表現」「構成」では、「構成」の得点が他よりやや低い結果となった。

【問題の特徴】

~ Writing ~

W

情報要約問題

聞こえてくる情報を、指定された語数で要約する力を測定する問題。

CEFR: B1~B2

高等学校学習指導要領 外国語より | 「書くこと」コミュニケーション英語 (1)(工) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 / コミュニケーション英語 (1)(工) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 / 英語表現 (1)(イ) 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。

2.

これから読まれる英文を聞き、その内容を30語程度の英語で要約しなさい。英文は2回読まれます。問題の途中でメモを取ってもかまいません。時間は4分です。

< スクリプト >

Most months have 30 or 31 days. But one month is different. Do you know which month it is? That month is February. Why is it special? It is different from the other months because it has 28 or 29 days. But it never has 30 or 31 days, like the other months.

But have you ever heard a person talk about doing something on February 30<sup>th</sup>? Is there ever a day between February 29<sup>th</sup> and March 1<sup>st</sup>? Of course, there is no such day. However, people sometimes talk about doing something on February 30<sup>th</sup>. Can you guess why they would say this? You may be surprised to hear the answer. It means they will never do something! Because there is no February 30<sup>th</sup>, people cannot do something on that date. So the next time someone says that they will do something for you by a date, make sure that it isn't February 30<sup>th</sup>!

解答例

February is different from other months because it has only 28 or 29 days.  
 "Doing something on February 30<sup>th</sup>" means that the thing will never happen.

得点と割合

項目：「内容」

要点1 (英文第1段落の要点)

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	78.1%	4.2%
1	16.7%	36.6%
2	5.2%	59.2%

要点2 (英文第2段落の要点)

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	98.9%	65.1%
1	0.9%	20.4%
2	0.1%	14.5%

項目：「表現」

得点	割合
0	62.7%
1	18.2%
2	18.2%
3	0.9%
4	0.0%

A1レベルでは要点を押さえられなかった生徒(0点)の割合は、馴染みのある内容の要点1で78.1%。馴染みのない内容の要点2で98.9%であった。

A2レベルでは要点を押さえられなかった生徒(0点)の割合は、馴染みのある内容の要点1で4.2%。馴染みのない内容の要点2で65.1%であった。

「表現」は、全体の62.7%の生徒が0点で、適切な表現で英文を書くことができなかった。

## 【問題の特徴】

### ~Speaking Part A~

**S****Part A  
音読問題****適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを英語で話すことができるかを測定する問題。****CEFR: A1**

(試験官)

*Please read the passage silently for 30 seconds. Now, please read it aloud.*

(音読用パッセージ)

A lack of safe drinking water is a major problem in many parts of the world. In fact, one in nine people around the world do not have access to it. Not having safe drinking water can cause serious health problems. How serious is this situation? It is said that more than two thousand people die every day because of such health problems. We need to find an answer to this problem.

### 得点と割合

観点1：「適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している」

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	14.5%	0.1%
1	60.0%	11.2%
2	25.5%	88.8%

A1レベルの60.0%が1点であった。これは、最後まで読めてはいるが、正しく発音できない単語がいくつかあったり、イントネーションやリズムが適切ではないことを意味する。

【問題の特徴】

~Speaking Part B~

S

Part B  
質疑応答問題

個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、質問に対して即座にかつ適切に回答することができるかを問う問題。

CEFR: A2 ~ B1

高等学校学習指導要領 外国語より | 「話すこと」コミュニケーション英語 (1)(ウ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 / コミュニケーション英語 (1)(ウ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。

(試験官)

Now, I'm going to ask you one question about the passage and some questions about yourself. Let's begin.

**Question No.1**

According to the passage, what can be caused by a lack of safe drinking water?

**Question No.2**

Let me ask you a question about yourself. What can you do to stay healthy?

**Question No.3**

What did you enjoy the most during the last summer holiday, and why?

**Question No.4**

Where do you prefer studying by yourself, at home or at a library, and why?

解答例

**Question No.1:**

Serious health problems.

**Question No.2:**

I try to walk to school for 30 minutes every day.

**Question No.3:**

I went to Okinawa. It was very interesting. The sea and the sky were beautiful.

**Question No.4:**

I like studying by myself at a library because I can study well there.

得点と割合

観点2: 「相手の発話に対応した適切な内容のやりとりとなっている」 観点3: 「適切な文法や表現を用いて話せている」

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	38.3%	0.4%
1	25.5%	1.4%
2	26.0%	28.4%
3	10.1%	69.8%

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	46.9%	0.0%
1	42.2%	10.4%
2	10.5%	67.3%
3	0.4%	22.2%

観点2において、A1レベルの生徒の0点、1点の割合はそれぞれ38.3%、25.5%で、これはQ1~Q4のうち応答できているのは0問~2問を意味する。

観点3において、A1レベルの生徒の0点、1点の割合はそれぞれ46.9%、42.2%で、これは使える語彙・表現・文法が限定的だったり、誤りが繰り返されていたりすることを意味する。

【問題の特徴】

~Speaking Part C~

S

Part C  
意見陳述問題

与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する問題。

CEFR: ~B2

高等学校学習指導要領 外国語より | 「話すこと」コミュニケーション英語 (1)(ウ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。/ コミュニケーション英語 (1)(ウ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。/ 英語表現 (1)(ア) 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。/ 英語表現 (1)(ウ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。/ 英語表現 (1)(ア) 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。

(試験官)

*The Japanese government should not allow shops to be open 24 hours a day, in order to save electricity. Do you agree or disagree with this statement? Give at least one reason to support your opinion.*

解答例

I think that stores should not be open 24 hours a day to save electricity. Using too much electricity is bad for the environment. Not many people use stores very late at night, but the stores use a lot of electricity for lights. This causes pollution, which is bad for our health.

得点と割合

観点4: 「与えられた質問に対応した適切な内容となっており、論理展開がわかりやすい構成になっている」

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	42.1%	0.2%
1	39.3%	5.1%
2	17.2%	53.9%
3	1.4%	40.9%

観点5: 「適切な文法や表現を用いて話せている」

得点	A1レベル 割合	A2レベル 割合
0	48.4%	0.1%
1	39.3%	9.0%
2	12.0%	73.7%
3	0.2%	17.3%

A1レベルの4割以上が観点4、5において0点であり、これは、与えられた質問に対応した内容になっていない、使える語彙・文法や表現が限定的、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たないことを意味している。

(別紙)

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠について

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) プリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive 2016年12月末 販売終了	TOEIC L&R TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5   9.0					
C1	CAE (180~199)	1級 (2630~3400)		1370   1400	7.0   8.0	400	800	95   120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160~179)	準1級 (2304~3000)	1190   1280	1160   1369	5.5   6.5	334   399	600   795	72   94	341   352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140~159)	2級 (1980~2600)	960   1189	880   1159	4.0   5.0	226   333	420   595	42   71	322   340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120~139)	準2級 (1728~2400)	690   959	510   879	3.0	150   225	235   415		300   321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (419-2200)	-689	-509	2.0					200-380 L&R 120~ S&W 80~

各資格・検定試験の得点とCEFRとの関連性について各試験団体が公表している結果をとりまとめたものです。英語力評価や大学入学者選抜における目安の一つとしてご参照下さい。

Cambridge English : ケンブリッジ大学英語検定機構  
[http://www.cambridgeenglish.org/jp/images/183107-page2\\_4\\_scale-scores.pdf](http://www.cambridgeenglish.org/jp/images/183107-page2_4_scale-scores.pdf)

英検 : 日本英語検定協会  
<http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>  
<https://www.eiken.or.jp/cse/>  
[https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/eiken-cse\\_admission.html](https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/eiken-cse_admission.html)

GTEC : 株式会社ベネッセコーポレーション  
 GTEC と CEFR レベル関連付け調査  
[http://cees.or.jp/pdf/reports/2017/GTEC-CEFR\\_Report.pdf](http://cees.or.jp/pdf/reports/2017/GTEC-CEFR_Report.pdf)

IELTS : プリティッシュ・カウンシル (および日本英語検定協会) 資料より

TEAP : 第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

TOEFL : 米国ETS  
<http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

TOEIC Tests : IIBC  
<http://www.iibc-global.org/toEIC/test/lr/about/result.html>  
 'L&R',または'S&W'の記載が無い数値が4技能の合計点

# (別紙)

## CEFR / CEFR-J をもとにした本調査の測定範囲

### 調査結果について

本調査結果では、英語力の指標としてCEFRおよびCEFR-Jを用いた。CEFR-Jは、CEFRに準拠して基礎レベルをより詳細に枝分かれさせた日本人英語学習者向けの参照枠でCEFRの「A1」は、CEFR-Jでは「A1.1」「A1.2」「A1.3」に分割される。本調査のCEFR閾値は、「Pre A1」「A1.1」を「A1下位」、「A1.2」「A1.3」を「A1上位」とした。各レベルが表す英語力の目安は以下表の通りである。

CEFRレベル	Reading	Listening	Writing	Speaking (表現)	Speaking (やりとり)	測定範囲		
						高校	中学	
B2	筆者の姿勢や視点が出てくる現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。標準語の映画なら、大部分は理解できる。	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	流暢に自然に会話を行うことができ、母語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。			
B1	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいの状況に対処することができる。例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。			
A2	A2.2	簡単な英語で表現されれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探すことができる。	スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。		
	A2.1	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。	日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって、」や「まっすぐ行って、」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。		
A1 上位	A1.3	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。		
	A1.2	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に応答することができる。		
A1 下位	A1.1	「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」、「座れ」、「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)を伝えることができる。	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。		
	Pre.A1	口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞き取ることができる。	アルファベットの大文字・小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。	簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのごく限られた情報(名前、年齢など)を伝えることができる。	基礎的な語句を使って、「助けて!」や「〜が欲しい!」などのインプットの要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。		

(出典)「CAN-DORIST作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック」(2013)、投野由紀夫(編)、大修館書店  
 (出典) Council of Europe (2008)「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」、吉島茂、大橋理枝(訳、編)、朝日出版社  
 上記出典をもとに、「B2」「B1」は「CEFR」、「A2」「A1」は「CEFR-J」のCAN-DO文言をもとに作成